東北地方・縄文晩期の土偶（８）

－本稿（６）以降の（７）で取り上げた多出遺跡を除く新報告資料、（６）以前の遺漏資料－

金子　昭彦

東北地方・縄文時代晩期土偶のデータ・ベース化の一環として今回は本稿⑹（金子2016）脱稿後に報告された新資料と⑹脱稿前に報告された資料の遺漏分を扱うが、⑺（金子2022）で既に扱った二十点以上新報告遺跡を除く。長く報告が待望されていた青森県槻の木遺跡と宮城県山王囲遺跡の資料、青森県清水森西遺跡と岩手県川岸場Ⅱ遺跡の弥生時代中期資料が注目される。

１．はじめに

本稿⑹執筆後に報告された資料（対象としては2015年４月以降発刊のもの）を“新報告資料”とし（第14表）、それ以前に報告されていた“遺漏資料”と分けて扱う（第15表）。新報告資料のうち、管見にした二十点以上出土した遺跡については、前稿⑺で既に扱っている（金子2022）。

２．表の見方

記載要綱は、⑴～⑺と同じである。大綱は⑴冒頭に記し、⑵～⑺冒頭で補足しているので参照願いたい。形態分類についても同様である。網掛は、報告書に記載がなく不明な項目である。

部位は、完全に残っていれば◎、欠けているが半分まで残っていれば○、それ以下ならば△で示した。接合欄の記号。△は、詳細は不明だが、接合していると思われるもの。○は、すぐそばの破片が接合したのではなく、廃棄後に割れたとは考えられないもの。“同”は接合しない同一個体破片あり。付着物の欄。表面に塗布する赤色付着物は、痕跡的なもの（不明含む）を○、全面塗布のものを●とした。黒色付着物は、塗布箇所が割口か否かに注意した。“女性”とは“女性的特徴の有無”の意である。ここでは、遮光器土偶など、類例が多くよく知られている類型については、女性器の有無だけ記し（有る場合、▼と記す）、その他の類型については、上記の特徴が認められる場合、全て記したいと思うが、縄文土偶は乳房を持つのが普通なので、特に大きいものだけ記す。乳、線（正中線の意）等と略記し、複数認められる場合は◎、三つ以上の場合は●と記し、備考欄に内容を略記する。なお、腰部に見られるパンツ状区画は、裸体表現（屈折像土偶など）や大きな乳房を持つ土偶（前葉の大型遮光器土偶など）に伴う場合がほとんどで、何らかの“女性的特徴”を表現している可能性が高いので、検討の対象に含めた（ある場合“パ”と記す）。

掲載箇所欄で文献名を引用する際、発行機関・発行年（西暦）で示すが、発行年は下二桁のみ、発行機関は、次のように略称している。○○県の教育委員会→県教、○○県の埋蔵文化財センター→県埋、○○市町村の教育委員会→○○（市町村名）、発行機関名が長い場合は最初の二文字で示したが、通称に倣って、弘前大学は“弘大”、国立歴史民俗博物館は“歴博”、陸前高田市は“陸高”と略す。備考欄で類例を引用した際の数字は、本稿⑴～⑺の表番号（通しで付けている）である。

第14表　新報告資料（１）（＊註の内容は、本文註の後に）

No.	県	遺跡名	形　態	時　期	部位 頭	部位 胸	部位 腹	部位 腰	部位 腕	部位 脚	残存率	現長 cm	接合	付着物 赤	付着物 黒	つくり（製作痕）	女性	出土位置	遺跡 立地	遺跡 評価	掲載箇所	備　考
h252	北	大平	結髪	聖山？	◎	○			○		1/4	6.6	○			★胴管孔			海段	拠点	道埋17→p.84の3	摩耗。結髪透かし孔。肩刺突列２。註４
h253	北	大平	？	不明						？	不明	4.9				脚？管孔			海段	拠点	道埋17→p.84の4	上部中空。多重斜線。土偶？
5173	青	亀ヶ岡	？	弥前？						△	小片	2.2				爪先作出			砂丘	拠点	つが19→68	足裏隅丸長方形。爪先刻目４
5174	青	亀ヶ岡	結髪	A1？	○						1/8	5		？					砂丘	拠点	つが19→p.52の3	結髪中央縦沈線。図に塗りつぶし部分
5175	青	亀ヶ岡	屈折像Ｂ	C2後半			○	○		○	1/4	7.5					◎		砂丘	拠点	つが19→p.52の4	正中沈線、パンツ内縄文。屈折弱め
5176	青	新沢(1)	結髪奴凧	砂沢		○	◎	◎		○	2/5	7.6							丘？	小？	県教16→92-15	図表裏逆。区画内刺突。背中竹管文2列
5177	青	新沢(1)	結髪	砂沢？		△					小片	4							丘？	小？	県教16→92-16	腕付け根多重沈線。背中竹管文２列
5178	青	新沢(1)	結髪	砂沢？			△				小片	3.7					線		丘？	小？	県教16→92-17	腹破片。正中沈線。脇腹つ字文
5179	青	新沢(1)	刺突文？	砂沢？			○	◎		○	不明	8.2							丘？	小？	県教16→92-18	腰上刺突帯。腰と脚間平行沈線
5180	青	新沢(1)	結髪	砂沢新	○						不明	4.2				中空			丘？	小？	県教16→92-19	顔剥落。類例1514、3691
5181	青	清水森西	結髪	五所	△	○					1/5	4.8				板状		墓覆	丘陵	半？	弘大19p.150-26	乳房囲うつ字文。背中多重平行線
5182	青	清水森西	結髪？	五所						○	小片	1.7							丘陵	半？	〃p.150-27	「肩～上腕」。図90°右。足境沈線
5183	青	清水森西	刺突文	五所			△	○		○	1/8	4.3				奴凧？			丘陵	半？	〃p.204-32	縦半裁欠損。区画内刺突多
5184	青	清水森西	刺突？？	五所			△	○		○	1/9	3.7							丘陵	半？	〃p.204-33	奴凧？　腰隆帯上刺突
5185	青	清水森西	刺突？？	五所			◎	◎			不明	4							丘陵	半？	〃p.204-34	脇腹区画内刺突
5186	青	槐の木	大遮	BC2	○	○			△		1/3	13.3		○		中空			段丘	拠？	歴博22→36-1	★後頭部摩滅。首裁痕列。磨消縄文
5187	青	槐の木	小遮？	C2古？	○	◎	○		○		不明	7							段丘	拠？	歴博22→36-2	腕の形→屈折像Ｂ？　首飾り状隆帯
5188	青	槐の木	小遮	C1古？	○						1/5	4.8		○					段丘	拠？	歴博22→36-3	頭頂Ｂ突起
5189	青	槐の木	大遮	BC1？	○						小片	7.5		○		中空			段丘	拠？	歴博22→37-1	眉状隆帯刻目。口周刺突。後頭Ｃ字文
5190	青	槐の木	大遮	BC2	△	◎	◎	◎	○	○	7/10	19.5				中空			段丘	拠？	歴博22→37-2	下腹部三叉透かし。背面山字文
5191	青	槐の木	結髪？？	A1??	○						不明	8.6							段丘	拠？	歴博22→38-1	頭頂弧状。目口貼付小。後頭部突起
5192	青	槐の木	小遮	BC2??			◎	○			3/10	6.2				内部隙間			段丘	拠？	歴博22→38-2	大型模倣系列。縄文地蔓状文
5193	青	槐の木	小遮	BC2？	○	△					2/9	4.5		○		中空			段丘	拠？	歴博22→38-3	首裁痕列。後頭部Ｃ字文
5194	青	槐の木	大遮	BC1？				○		○	1/9	9.3				中空	▼		段丘	拠？	歴博22→38-4	▼三叉文。腰縄文地Ｃ字文
5195	青	槐の木	大遮	BC1？			△	△		○	1/9	17.6		○		中空			段丘	拠？	歴博22→38-5	パンツ区画？　縄文地刺突列、Ｃ字文
5196	青	槐の木	小遮×ｘ	C2古	◎	◎	◎	○	◎	○	4/5	8.6				小型板状			段丘	拠？	歴博22→39-1	目楕円線。胸対抗△。背中Ｃ字入組文
5197	青	槐の木	〃？	C2古？			△	○		◎	不明	3.5					線		段丘	拠？	歴博22→39-2	正中沈線下刺突
5198	青	槐の木	小遮	BC2？	○						1/6	4							段丘	拠？	歴博22→39-3	頭頂、耳Ｂ突起。裁痕列
5199	青	槐の木	小遮	～BC2	○						1/5	2.2				中空			段丘	拠？	歴博22→39-4	大型模倣。頭頂開口。後頭蛇行沈線
5200	青	槐の木	小型無文？	？	◎	◎	◎	◎	○	○	7/8	8.2							段丘	拠？	歴博22→39-5	★頭頂～口～股間貫通孔。背Ｓ字文
5201	青	槐の木	小遮？？	？	◎	◎			○		不明	5				粗雑			段丘	拠？	歴博22→39-6	小型無文。頭頂角状突起２。鼻口刺突
5202	青	槐の木	大遮	C1新？				△		○	小片	5.5				中空			段丘	拠？	歴博22→39-7	部位境裁痕列無。腰凹凸文様
5203	青	槐の木	大遮	C1新？						○	小片	4.6				中空			段丘	拠？	歴博22→39-8	部位境裁痕列無で平行沈線
5204	青	槐の木	大遮系統	C2古？					○		小片	3.4				中空			段丘	拠？	歴博22→39-9	直線的。先端沈線一周
5205	青	槐の木	小遮？？	～BC?		△					小片	2.5							段丘	拠？	歴博22→39-10	大型模倣？　蔓状文
5206	青	槐の木	小型無文？	晩？	◎	◎	◎	○	－	－	略完	6.5				小型板状			段丘	拠？	歴博22→39-11	頭部二山状。口？凹。粗雑
5207	青	槐の木	ｘ×小遮?	Ｃ２？		◎	◎	◎	○	○	4/5	4.5				小型板状			段丘	拠？	歴博22→39-13	粗雑。無文。胴直線。手足Ｂ突起
5208	青	道仏鹿糠	結髪？？	A1～？	？						不明	2.8							中段	小？	県教17→図41-2	「刺突文」「腕」結髪破片？　円形刺突、沈線
5209	青	道仏鹿糠	結髪	A1		△			○		小片	2.1							中段	小？	県教17→図41-3	胸細い隆帯。背中４本沈線
5210	青	道仏鹿糠	？小型	不明						？	不明	3.3				ミガキ			中段	小？	県教17→図41-4	「小遮、脚」。円柱状、下端沈線。土偶？
5211	岩	宿戸	結髪	A´新？		○	○	△		△	3/10	9	→			中空	バ		丘陵	註５	県埋21→2648	接合しない破片６。乳房丸。背６字文。刺突
5212	岩	宿戸	結髪系??	弥前？	？						不明	3							丘陵	註５	県埋21→2649	土偶？　頭T字状？3819類例？　刺突
5213	岩	宿戸	結髪？？	弥前？		？					不明	4							丘陵	註５	県埋21→2650	土偶？背中？　爪形状刺突多
5214	岩	松尾釜石	後期×遮	B2古	○	○	◎	◎		○	7/10	24	△	○		後頭開口			丘陵	拠点	八幡17→108-1	★自立脚裏から長い貫通孔。研磨。註６
5215	岩	松尾釜石	小遮？	～C1古		○	○	◎	○	◎	2/3	6							丘陵	拠点	八幡17→108-2	腹貼付異形。全身蔓状文
5216	岩	松尾釜石	小遮	～C1古	○	◎	◎	◎	○	◎	9/10	12	△						丘陵	拠点	八幡17→108-3	肩張短足系列。Ｂ突起。裁痕列
5217	岩	松尾釜石	小遮	C1新		○			○		1/5	4.5							丘陵	拠点	八幡17→108-4	肩張短足系列？　首下肩に隆帯（無文）
5218	岩	松尾釜石	小遮	BC2？	△	○	△				1/7	5.2							丘陵	拠点	八幡17→108-5	胴長系列１？　蔓状文
5219	岩	松尾釜石	小遮	BC2？			△	○		○	1/6	5.5							丘陵	拠点	八幡17→108-6	下腹隆帯。蔓状文。裁痕列無
5220	岩	松尾釜石	小遮	BC2？			△	○		○	1/7	3.6							丘陵	拠点	八幡17→108-7	脚沈線二列
5221	岩	松尾釜石	大遮	前葉？		△					1/10	6.7		○		輪積中空			丘陵	拠点	八幡17→108-8	背中破片。磨消縄文（方形基調）
5222	岩	松尾釜石	小遮	～C1古			△	△			小片	4							丘陵	拠点	八幡17→108-9	腰突出帯に裁痕列。蔓状文
5223	岩	松尾釜石	大遮	～C1古				△			小片	3.1		○		中空			丘陵	拠点	〃108-10	下腹突出部破片。縄文。渦巻裁痕列。刺突
5224	岩	松尾釜石	大遮	C1？			？				小片	2.5				輪積中空			丘陵	拠点	〃108-11	「腹部」。刺突
5225	岩	松尾釜石	小遮	～C1古				△		○	小片	4.4			割口				丘陵	拠点	〃108-12	左脚。裁痕列。腰Ｂ突。「アスファルト付着」
5226	岩	松尾釜石	後期以来	後々？						△	小片	4.5				厚い中空			丘陵	拠点	〃108-13	帯縄文
5227	岩	松尾釜石	大遮系統	～A1						△	小片	1.6				足上中空			丘陵	拠点	〃108-14	足裏小判型。爪先短沈線５
5228	岩	松尾釜石	後期以来	後々？					？	？	小片	5.8							丘陵	拠点	八幡17→113-1	腕か脚。屈折像Ａ？　瘤状突出。縄文
5229	岩	松尾釜石	後期以来	B1古？						？	小片	8.5				中空			丘陵	拠点	八幡17→113-2	「膝部」隆帯上に玉抱三叉文
5230	岩	松尾釜石	大遮	BC2？			△	△			小片	9				中空			丘陵	拠点	八幡17→113-3	右腰。磨消縄文。★側面縄文施されず
5231	岩	松尾釜石	大遮	C1古？		△					小片	4				中空			丘陵	拠点	八幡17→113-4	肩。二条隆帯上刺突列
5232	岩	松尾釜石	大遮	C1	△	△	△				1/10	5.7				中空			丘陵	拠点	八幡17→113-5	左肩。首下肩２条隆帯上刻目。磨消縄文
5233	岩	松尾釜石	刺突文？	A´古～				△		△	1/7	6							丘陵	拠点	八幡17→113-6	結髪？　★足裏中央浅め孔。腰沈線刺突
5234	岩	乙部野Ⅱ	刺突文	青木？		○	△				1/6	6.5		○		中空	線	住居	丘陵	拠点	県埋18→1210	「床直？」。臍貫通。正中隆帯間刺突列
5235	岩	乙部野Ⅱ	刺突文	青木？	△						小片	4.8				中空			丘陵	拠点	県埋18→1224	頭頂部破片？　隆帯に穿孔
5236	岩	乙部野Ⅱ	刺突文	青木？		△					小片	1.8				中空			丘陵	拠点	県埋18→1269	「土器？」。つ字文。刺突多
5237	岩	乙部野Ⅱ	刺突文	青木？		？					小片	2.4				中空			丘陵	拠点	県埋18→1273	「肩パッド」。刺突多。無文部
5238	岩	乙部野Ⅱ	結髪	青木？		△					小片	4.7				中空？			丘陵	拠点	県埋18→1274	右肩？　雑な沈線文（円文）
5239	岩	乙部野Ⅱ	刺突文	青木？		？		？			小片	2.8				中空			丘陵	拠点	県埋18→1275	肩パッドか腰。刺突多。沈線？
5240	岩	乙部野Ⅱ	刺突文	青木？							小片	3.5				中空			丘陵	拠点	県埋18→1277	部位不明。刺突多。「粘土まくれ」
5241	岩	浜川目・・	小遮	C1新？	○	○	○	○		◎	3/5	8.7					線		低地	拠？	県埋18→3295	肩張短足？　顔横長。背入組文。腰Ｂ突起
5242	岩	浜川目・・	大遮	～C1	△						小片	3.5				中空			低地	拠？	県埋18→3296	目の破片
5243	岩	浜川目・・	小遮	～C1	△						小片	2.4				中空			低地	拠？	県埋18→3297	顔の破片。目縁取る隆帯刻み
5244	岩	浜川目・・	小遮	BC2?	○						1/6	4.5							低地	拠？	県埋18→3298	肩張短足系列？　裁痕列。首突起
5245	岩	浜川目・・	大遮	C1新		△			△		1/10	4.1				中空			低地	拠？	県埋18→3299	磨消縄文。部位境裁痕列無。乳小
5246	岩	浜川目・・	大遮	～C1古					？		小片	4.8				中空			低地	拠？	県埋18→3300	左腕？　肩隆帯刺突列。裁痕列
5247	岩	浜川目・・	大遮系統	C2古		○	△		○		小片	4.5				中空			低地	拠？	県埋18→3301	肩隆帯。磨消縄文。背中装飾一段。腕小
5248	岩	浜川目・・	大遮系統	C2古？						△	小片	3.7				中空			低地	拠？	県埋18→3302	脚短く球状。ミガキ
5249	岩	浜川目・・	小遮	～C1						△	小片	2.8							低地	拠？	県埋18→3304	沈線
5250	岩	浜川目・・	？小型	C2？？						△	不明	2.8							低地	拠？	県埋18→3305	円柱状。刻目帯三列、下端刻目帯一周
5251	岩	浜川目・・	大遮	BC2?				△		△	1/9	7.8				中空			低地	拠？	県埋18→3306	磨消縄文（Ｃ字入組文）。脚長め

No.	県	遺跡名	形態	時期	部位						残存率	現長	接合	付着物		つくり	女性	出土位置	遺跡		掲載箇所	備考
					頭	胸	腹	腰	腕	脚		cm		赤	黒	（製作痕）			立地	評価		
5252	岩	畠中	屈折Ｂ？	C2古？	○	△					不明	5							斜面	註７	山田20→280	頭頂凹。目沈線。首飾状刺突列。註８
5253	岩	畠中	大遮系統	A1		△	△		○		1/8	3.2							斜面	註７	山田20→286	腕多重線。肩工字文系三叉文
5254	岩	不動Ⅰ	大遮	C1新？	△	○	△		○		1/6	7.6	△			中空			低段	拠点	花巻18→177	付着物等不詳。腕小。胴二段。広斜文
5255	岩	不動Ⅰ	大遮	BC2	△	△					小片	3.8				中空			低段	拠点	花巻18→178	〃。裁痕列。肩蔓状Ｃ字文
5256	岩	不動Ⅰ	大遮？？	前葉？	△						小片	3.2				中空口貫通			低段	拠点	花巻18→179	〃。「顔付土器？」。鼻異形（鼻孔）
5257	岩	不動Ⅰ	大遮	BC1？		△					小片	1.8				中空			低段	拠点	花巻18→180	〃。肩片。磨消縄文
5258	岩	不動Ⅰ	後期以来	後後？					△		不明	8				中空			低段	拠点	花巻18→181	〃。長い腕？弧を描く。磨消縄文（帯状）
5259	岩	屋形	刺突文	弥前末				△		○	1/7	8.3				中空			扇？	半？	釜石19→p.97の1	腰に刺突、平行沈線間無文帯
5260	岩	屋形	刺突文	弥前末		△					小片	4				中空？			扇？	半？	釜石19→p.97の2	脇下？？　多重沈線、刺突
5261	岩	屋形	刺突文	弥前末		△			○		小片	5.3				中空？			扇？	半？	釜石19→p.97の3	肩パッド～腕。刺突
5262	岩	屋形	刺突文？	弥前末						△	小片	3.2				足上中空			扇？	半？	釜石19→p.97の4	足と脚の境平行沈線？
5263	岩	屋形	刺突文	弥前末			△	△			1/8	5.2							扇？	半？	〃p.154の28	剥落。胴と腰境平行沈線間無文
5264	岩	屋形	刺突文？	弥前末						△	小片	5.7				足上中空			扇？	半？	〃p.204の59	大型土偶。無文
5265	岩	屋形	結髪	弥前末		△			○		小片	4				腕だけ中実			扇？	半？	〃p.204の60	左肩。図90°右。竹管状刺突列。沈線
5266	岩	屋形	刺突文	弥前末							細片	2.5				中空？			扇？	半？	〃p.204の61	部位不明。刺突多
5267	岩	屋形	刺突文？	弥前末							小片	5.4							扇？	半？	〃p.204の62	部位不明。刺突多
5268	岩	屋形	結髪？？	弥前末							細片	3							扇？	半？	〃p.204の63	部位不明。大きめの刺突列
5269	岩	屋形	刺突文	弥前末		△					小片	5.4							扇？	半？	〃p.255の11	短い肩パッド。図90°右。刺突多
5270	岩	屋形	刺突文	弥前末		△					小片	5.2				中空			扇？	半？	〃p.255の13	右胸乳。図約100°右（輪積水平に）。刺突、沈線
5271	岩	扇洞	結髪	A´古～	△						小片	3.7				中空？			裾野	拠？	県教16→101	結髪破片。丸い突出部に刺突多
5272	岩	宮野貝塚	小遮	BC2？	○						1/5	4.5							扇状	拠？	大船16→431	頭頂部に扇状突起。裁痕列。摩耗？
5273	岩	宮野貝塚	小遮	～C1	△						小片	3				中空			扇状	拠？	大船16→432	右後頭部破片。耳Ｂ突起。裁痕列
5274	岩	宮野貝塚	小遮	～C1						△	小片	3.5				中空			扇状	拠？	大船16→433	
5275	岩	宮野貝塚	小遮	BC2？	○	◎			○		2/5	7.8							扇状	拠？	大船15→315	裁痕列多。Ｃ字文
5276	岩	宮野貝塚	結髪？？	A1～						△	小片	2.3				中空			扇状	拠？	大船15→522	刺突文土偶？
5277	岩	宮野貝塚	小遮	C1？	△	○	△				1/5	3.8							扇状	拠？	県埋16→204	首列点文。胸肩Ｃ字文
5278	岩	宮野貝塚	小遮	～C1						△	小片	3							扇状	拠？	県埋16→205	
5279	岩	宮野貝塚	大遮系統	C2中？	△						小片	2.5				中空？			扇状	拠？	県埋16→206	目口楕円貼付（目上縄文）
5280	岩	大洞貝塚	結髪	A2～？				△		○	1/6	5.2					バ		丘陵	拠点	大船16→264	摩耗。パンツ内刺突多。腰脇？弧線
5281	岩	長谷堂・・	結髪？？	後葉？						○	不明	4			割口				丘陵	拠？	大船18→681	左脚。ガニ股。爪先細い刻目６。脚黒付
5282	岩	長谷堂・・	結髪	A1		○	○				1/5	7					線		丘陵	拠？	大船18→682	正中大柄刺痕列両側沈線。肩表裏隆帯
5283	岩	長谷堂・・	大遮	BC2？				？		？	小片	4			割口	足？中実			丘陵	拠？	大船18→784	「左腕」。足黒付。浮彫磨消縄文（Ｃ字文）
5284	岩	長谷堂・・	大遮	～C1古						△	小片	2.9				足中実			丘陵	拠？	大船18→785	足境裁痕列
5285	岩	長谷堂・・	大遮系？	C2中～						△	小片	1.2				足中実			丘陵	拠？	大船20→393	足のみ。足卵形。爪先刻目５
5286	岩	長谷堂・・	～結髪	～A1	○						1/10	4.2				首下中空			丘陵	拠？	大船21→29	屈折像Ｂ？★額深い刺突。眉刻目列
5287	岩	長谷堂・・	刺突？？	～A2?						△	不明	8.1							丘陵	拠？	大船21→64	脚長い。脚縄文。足略円形。爪先刺突
5288	岩	長谷堂・・	結髪	A1新？		○	◎	△			1/4	6.9				中空	◎		丘陵	拠？	大船21→76	正中他刺痕列。パンツ内条線。註９
5289	岩	獅沢貝塚	刺突？？	A´？						△	小片	2.7				足上中空			丘陵	拠？	陸高18→78図7	足破片。隅丸長台形。爪先刻目７
5290	秋	下台	結髪	A1新	△	◎	○		◎		2/5	4.2		○			線	住覆	低段	半？	弘大17→49-1	正中Ｙ沈線。背中文様両肩連続
5291	秋	下台	結髪	〃？	△						小片	2.4		○				住覆	低段	半？	弘大17→49-7	結髪破片。左右対称
5292	秋	下台	結髪	〃？					○		小片	1.7		○				住覆	低段	半？	弘大17→49-8	表裏沈線文（区画線でなく文様）
5293	秋	下台	結髪	A1新	△	○			○		1/8	4.2		○		中空		住覆	低段	半？	弘大17→49-9	乳房隆帯刻目。胸背中平行沈線
5294	秋	下台	結髪？	A2？				△			小片	3.3				中空		住覆	低段	半？	弘大17→49-11	短パン状。刺突多
5295	秋	下台	結髪？	A1？				△			小片	2.5		○		中空			低段	半？	弘大17→49-13	大遮系統？　多重沈線。
5296	秋	中山	後期以来	後末？						△	不明	5.1							低段	拠点	弘大18→図7-1	脚途中区画内短沈線多
5297	秋	中山	後期以来	後末？				◎		○	不明	6.5			割口		線		低段	拠点	〃図28-29	足黒付。正中隆帯刺突列。註10
5298	秋	中山	大遮	BC2	○						1/7	9.8		●		中空			低段	拠点	〃図29-9	首Ｃ字文。橋状把手。蛇行沈線
5299	秋	中山	小遮	～C1古	○	○	○		△		5/9	9							低段	拠点	〃図31-7	摩滅。頭頂Ｂ突起。首列点文。菱形文
5300	秋	大沢Ⅰ	後期以来	後末？	○						不明	3.8			割口				？	拠？	〃図47-1	首黒付。目貼付？に横線。口横線
5301	秋	大沢Ⅰ	後期以来	後末？	△	○	△		△		1/5	6			割口				？	拠？	〃図47-2	首黒付。Ｖネック隆帯。背中入組文
5302	秋	大沢Ⅰ	後期以来	B1古？	○						1/6	5.2							？	拠？	〃図50-12	頭頂鉢巻状貼付。口横三叉文
5303	秋	大沢Ⅰ	大遮	BC2	△	△					小片	3.2				中空			？	拠？	〃図50-15	首裁痕列Ｃ字文。磨消縄文
5304	秋	鐙田	結髪変形	A´新	○	○	◎	○	－	－	9/10	9.2	△			板状			低湿	拠？	根岸21→22図4	全体Ｔ状。★耳乳貫通孔。背６字文？
5305	宮	大久保・・	大遮系統	C2新？	○						1/10	4.9				中空			丘陵	半？	県教19→17図3	★後頭部貫通孔。眉目口斜縄文
5306	宮	大久保・・	大遮系統	C2新？		△			○		小片	2.1			割口				丘陵	半？	県教19→17図4	肩黒付。肩上瘤突起。縄文。手先刻目３
5307	宮	山王囲	結髪	青木？	○						不明	3.3							堤防	拠点	弘大21→図47-1	頭頂長く緩やかな弧。頭頂沈線１刺突列２
5308	宮	山王囲	大遮系統	A1		△			○		小片	4							堤防	拠点	弘大21→図47-2	肩工字文。腕平行沈線
5309	宮	山王囲	大遮系統	～A1	△			△		△	1/5	8.6	同	○		下半身中空			堤防	拠点	〃図47-3（頭）,4	顔横突起平行線。腰縄文地多重沈線
5310	宮	山王囲	大遮系統	C2新？				△			小片	1.4			割口	中空			堤防	拠点	弘大21→図47-5	脚黒付。磨消縄文
5311	宮	山王囲	大遮系統	A1？				△			小片	1.3			割口	中空			堤防	拠点	弘大21→図47-6	脚黒付。入組沈線、鋸歯文。Ｂ突起
5312	宮	山王囲	大遮系統	C2後半				△			小片	3				中空			堤防	拠点	弘大21→図47-7	磨消縄文（磨消部細長い）
5313	宮	山王囲	大遮系統	～A1		△	△	○			1/5	5.3				中空	線		堤防	拠点	弘大21→図47-8	★「臍穿孔」。腰工字文？に縄文
5314	宮	山王囲	結髪	青木？	○						不明	3				頭透かし			堤防	拠点	弘大21→図47-9	目短沈線。耳貫通孔
5315	宮	山王囲	刺突文	弥前末		○	△				不明	4.5							堤防	拠点	弘大21→図47-10	★丸い乳房貼付？　肩パッド
5316	宮	山王囲	結髪	A´	○						1/8	6.2		？		大型中空			堤防	拠点	弘大21→図47-11	優品。頭透かし。口丸い貼付中央深い刺突
5317	宮	山王囲	刺突？？	？			○	○			不明	8				雑			堤防	拠点	弘大21→図47-12	ガニ股で結髪土偶？　腰刺突三日月文？
5318	宮	山王囲	結髪	～A´？	△						小片	3.2				頭透かし			堤防	拠点	弘大21→図47-13	頭頂多重沈線
5319	宮	山王囲	大遮系統	A1		△	○		○		1/6	4				胴中空	線		堤防	拠点	弘大21→図48-1	脇腹つ字文？→結髪土偶？　肩多重線
5320	宮	山王囲	大遮系統	A1		○			○		小片	2.6				胴中空			堤防	拠点	弘大21→図48-2	肩工字文？　腕多重沈線
5321	宮	山王囲	結髪	後葉？	○						小片	3.5				胴中空？			堤防	拠点	弘大21→図48-3	頭透かし孔？　目口楕円貼付刻目列
5322	宮	山王囲	大遮系統	C2新～				○		△	小片	3			割口	中空	▼		堤防	拠点	弘大21→図48-4	脚黒付。▼遮光器眼状。★股下穿孔
5323	宮	山王囲	大遮系統	A1？				△			小片	2.6			割口	中空			堤防	拠点	弘大21→図48-5	脚黒付。腰上多重沈線
5324	宮	山王囲	結髪	A1			○	○		○	1/5	8.4				胴中空	◎		堤防	拠点	弘大21→図48-6	正中線、パンツ内刺突。腰上多重円
5325	宮	山王囲	小型無文？	～後？	○	○					不明	5.4					線		堤防	拠点	弘大21→図48-7	正中線刺痕列？　口？乳横。耳穿孔
5326	宮	山王囲	大遮系統	A1		○			○		小片	4.4							堤防	拠点	弘大21→図48-8	肩多重円
5327	宮	山王囲	大遮系統	C2後半		○			○		小片	4.3							堤防	拠点	弘大21→図48-9	磨消縄文（Ｃ字文？）。手先刻目、裏三叉文
5328	宮	いもり・・	刺突文？	～A´新						△	不明	4.5							丘陵	拠？	大崎21→42図1	雑、太めの棒粘土塊状。刺突
5329	宮	いもり・・	結髪？	A´新？		△					不明	2.8				厚い板状			丘陵	拠？	大崎21→42図2	腕横沈線文。背中刺突列３、沈線２
5330	宮	いもり・・	刺突文？	～A´新				△		○	不明	4.6				雑			丘陵	拠？	大崎21→42図3	Ｏ脚。腰と足の間沈線。脚刺突多
5331	宮	いもり・・	結髪変？	～A´新				？		？	不明	4.2				板状？			丘陵	拠？	大崎21→42図4	Ｔ字状？大足？　裾広がり部分に刻目５
5332	宮	いもり・・	結髪	A´新？	○						1/9	5		○	割口				丘陵	拠？	大崎21→95図1	首黒付？　結髪下透穴、両端円形突起

No.	県	遺跡名	形　態	時　期	部　位						残存率	現長 cm	接合	付着物		つくり（製作痕）	女性	出土位置	遺　跡		掲載箇所	備　　考
					頭	胸	腹	腰	腕	脚				赤	黒				立地	評価		
5333	宮	いもり・・	結髪？	～A´新	△						不明	2.4				★横貫孔			丘陵	拠？	大崎21→95図2	結髪破片？　二又先端平行沈線
5334	宮	いもり・・	大遮系？	A1？	△	○			○		1/8	3.6					線		丘陵	拠？	大崎21→95図3	正中刺痕列。背中平行線。手刻目４
5335	宮	いもり・・	結髪変形	A´新	○	◎	○		－		不明	4.8				→	線		丘陵	拠？	大崎21→95図4	T字状？★体内深孔　胸横平行線多
5336	宮	いもり・・	結髪	～A´新		△			○		小片	3.1							丘陵	拠？	大崎21→95図5	肩竹管文。胸横つ字文？　手先刻目４
5337	宮	いもり・・	刺突変形	～A´新				△		○	不明	8							丘陵	拠？	大崎21→96図1	O脚。脚平行線２間刺突多
5338	宮	いもり・・	結髪か刺	～A´新						△	不明	2.1							丘陵	拠？	大崎21→96図2	足裏楕円形
5339	宮	いもり・・	？大型	～A´新						△	不明	2.4				足上中空			丘陵	拠？	大崎21→96図3	足裏円～楕円形
5340	宮	いもり・・	結髪	～A´新		△			△		小片	2.2							丘陵	拠？	大崎21→96図4	背中平行線？
5341	宮	北小松	結髪変形	～弥前	◎	◎	◎	○	◎	○	9/10	8.2				股間刺突	線		沖積	拠？	県教20→15図1	正中沈線。結髪状縦位二列。６字文
5342	宮	通木・・・	刺突文	末～		△			○		小片	4.1		○		中空			沖積	拠？	大崎21→57図1	肩パッド。縄文、刺突列
5343	宮	通木・・・	結髪	弥前末		△					小片	2.6		○		輪積中空	線		沖積	拠？	大崎21→57図2	左胸？　乳円形貼付？　沈線、刺突列
5344	宮	お椀子山	刺突文？	弥前末		○	◎	○	○	◎	不明	8.6							丘？	散？	大崎19→33図1	折衷？　胸刺突多。腰隆帯。裏６字文
5345	宮	川前	？	中葉？						△	不明	3.3							堤防	拠？	仙台18→313-7	小型無文？　足首括れ
5346	宮	川前	岩偶形？	C２？	◎	◎	◎	△	○		不明	7				板状			堤防	拠？	仙台18→328-5	無文。顔口凹のみ。背中円文。腰沈線
5347	宮	川前	屈折A？	～B2?						○	1/5?	5							堤防	拠？	仙台18→348-1	体育座り。膝頭円文。足形リアル
5348	山	上竹野	刺突文	A´新？	△	◎	○		◎		5/9	9		○		輪積中空	線	坑埋	低段	半拠	県埋19→124-11	正中隆帯上沈線。首刺突。背６字文
5349	山	上竹野	刺突文	～弥前						△	小片	1.7		○	外面	中空？			低段	半拠	〃154-10	足裏丸みを帯びた楕円形
5350	山	上竹野	刺突文	～弥前						△	小片	1.3							低段	半拠	〃154-11	足裏丸み帯びた長い台形。爪先刻目５
5351	山	上竹野	刺突文系	青木？		◎	◎	○	◎	◎	4/5	15.3		◎		中空	線		低段	半拠	〃188-1	正中沈線。腰隆帯剥落。★股下貫通孔
5352	福	毛萱館跡	刺突文？	末？		△					小片	5.6							丘陵	散？	県教20→80-3	弥生中期後半住居覆土出土。肩パッド
5353	福	高橋	後期以来	～B2		△	○				不明	6				板状			低段	拠点	楢葉19p.268-11	表裏縄文地魚眼状三叉文
5354	福	高橋	肩パッド	A1？		○			○		不明	5.8	同			中空			低段	散？	楢葉19p.269-7,8	長い肩パッド。肩上にも広い楕円隆帯

３．その後（本稿⑹以降、⑺で取り上げた多出遺跡を除く）の報告資料

（１）北海道

北海道出土品は本稿の直接の対象でないため参考資料として別番号をふっている（h）。

・木古内町大平遺跡（第14表h252～h253）（（公財）北海道埋蔵文化財センター2017）

札苅遺跡の南西約1.5㎞にある。自動車道建設に伴い1,700㎡調査され、縄文時代晩期前葉の墓と焼土、晩期後葉の捨て場などが検出された。まとまった点数の土器として、縄文時代後期後葉～末、晩期前葉～後葉が出土しているが、「土器の７割強は縄文時代晩期後葉」（報告書：p.8）らしい。

当該期の土偶は２点らしいが、第14表h253を晩期後葉の土偶の脚部と判断した根拠が不明である。後期後葉の比較的残りの良い土偶２点、墓から漆塗櫛２点、サメ歯16点出土している。北斗市添山遺跡で既に結髪系土偶の存在は知られていたが（金子2020b）、より明瞭な例が出土した。

（２）青森県

・つがる市亀ヶ岡遺跡（第14表5173～5175）（つがる市教育委員会2019）

各種開発行為に備え、また将来の史跡追加指定も目指し、丘陵上を中心に1,535㎡確認調査された。丘陵上で再び土坑墓群は検出されたが、竪穴住居跡は晩期前半の数棟に留まる。土偶が出土した地点（157㎡）では、大洞A1式～砂沢式土器などが出土した。「総括報告書」として、これまでの調査結果もまとめられている。亀ヶ岡考古資料室に寄託された土偶４点が図化されているが、残念ながら観察記述がない。既に取り上げた資料（本稿⑵第２表1170、1174）を除く２点を表にした。

・鰺ヶ沢町新沢⑴遺跡（第14表5176～5180）（青森県教育委員会2016）

国道バイパス？建設事業に伴い3,500㎡調査され、平安時代の集落跡（住居７）が主に発見された。その他、縄文時代晩期？の土坑12基、弥生時代前期の土器埋設遺構１基などが検出され、砂沢式土器が比較的まとまって出土しており、その他、大洞ＢＣ～Ｃ１式の残りの良い土器などが見られる。

・弘前市清水森西遺跡（第14表5181～5185）（弘前大学2019）

学術調査で約160㎡調査し、弥生時代中期前葉の集落跡が発見された。出土土器は、五所式のみのようである。調査出土品のほか表採資料の３点の報告もある（第14表5183～5185）。同じく５点の表採土偶が既に報告されていて（工藤1978）次節で補った。第14表5181は、土坑から出土し、報告書では特に墓とされていないが、平面形と規模、土器の出土状況から、可能性は高い。ただし、土偶は、その上層から破片で出土し、墓に伴う可能性は低いと考え、表では埋土ではなく覆土とした。

・青森県平内町槻の木遺跡（第14表5186～5207）（国立歴史民俗博物館2022）

第 15 表　遺漏資料（1）（＊註の内容は、本文註の後に）

No.	県	遺跡名	形態	時期	部位						残存率	現長	接合	付着物		つくり	女性	出土位置	遺跡		掲載箇所	備考
					頭	胸	腹	腰	腕	脚		cm		赤	黒	（製作痕）			立地	評価		
5355	青	亀ヶ岡	小遮	BC1？		◎	◎	◎	◎	◎	4/5	5.3							砂丘	拠点	歴博15図65-12	裁痕列無。黒光沢
5356	青	亀ヶ岡	大遮系統	C2古	○	△	△				1/7	7.2				中空			砂丘	拠点	〃図66-13	顔縁取る刻目隆帯。胴磨消縄文
5357	青	亀ヶ岡	小遮	BC2?	◎						1/5	4.6		○					砂丘	拠点	〃図67-11	頭頂Ｂ突起。首裁痕列。黒光沢
5358	青	亀ヶ岡	大遮系？	C2古	○						不明	5.1							砂丘	拠点	〃図67-10	頭頂環状貼付４。目口貼付
5359	青	亀ヶ岡	大遮系統	C2中？	○						不明	4.7				首中空			砂丘	拠点	〃図68-9	頭頂突起列。口貫通。後頭雲形文
5360	青	亀ヶ岡	大遮	BC1？	△						小片	4.4		○		中空			砂丘	拠点	〃図68-15	「黒漆」。眉額縄文。口貫通孔。口周刺突
5361	青	亀ヶ岡	後期以来	後末？	○						不明	2.4							砂丘	拠点	〃図68-19	摩耗。弧状眉。目短沈線。口深い刺突
5362	青	亀ヶ岡	x字形系	C2中	△	◎	○				不明	7.6				大型板状	線		砂丘	拠点	〃図69-2	正中刺痕列。乳房連続。背Ｃ字入組文
5363	青	亀ヶ岡	x字形系	C2中？	◎	◎			◎		3/5	5.5				板状			砂丘	拠点	〃図70-14	図天地逆。頭頂平ら
5364	青	亀ヶ岡	小型無文	Ｃ２？	◎	◎			○		不明	2.7							砂丘	拠点	〃図71-21	頭山形突起状
5365	青	清水森西	刺突？？	五所？	？	？	？	？	？	？	完？	5.6				頭広板状			丘陵	半？	工藤78→図6-1	図天地逆。★乳貫通孔。背工字。註11
5366	青	清水森西	結髪？？	五所？	？						不明	2.8				中空			丘陵	半？	工藤78→図6-2	「肩」。刻目帯→図天地逆→後頭部？
5367	青	清水森西	結髪	五所？	◎	◎	◎	◎	◎		4/5	2.8				奴凧板状			丘陵	半？	工藤78→図6-3	乳横一周多重線、刻目列？
5368	青	清水森西	結髪	五所？	△	○	△				1/3	2.8				奴凧板状			丘陵	半？	工藤78→図6-4	★乳貫通孔。胸表裏多重線、裏下刺突？
5369	青	清水森西	結髪	五所？	○	○	△				不明	5.3				板状			丘陵	半？	工藤78→図6-5	乳横多重線。裏脇腹平行沈線
5370	青	大光寺・	刺突？？	田舎館		△	？				不明	5.3	→			胴中空			？	小？	平賀88→14図	左腕と胴部片。多重線。刺突
5371	青	石郷(1)	後期以来	～後末						△	不明	6							堤？	拠？	平賀95→11図1	平行沈線、一部階段状
5372	青	石郷(1)	後期以来	～後末						△	不明	6							堤？	拠？	平賀95→11図2	かかと表現
5373	青	篠原	小型	前？		○	◎	◎		◎	不明	5						埋設	丘？	註12	青森06→28	埋設土器内出土。胴一周蔓状文
5374	青	篠原	x字形	Ｃ２？	◎	◎			○		3/8	3.5				小型板状			丘？	註12	青森06→94	胸表裏▽の凹。胸のラインが直線的→新？
5375	青	篠原	大遮	B2？？	△						小片	3.1				中空			丘？	註12	青森06→253	眉隆帯縄文
5376	青	篠原	土偶？	不明						？	不明	3							丘？	註12	青森06→254	図天地逆？　無文
5377	青	槐の木	大遮	C1新？	○						1/9	9				中空			段丘	拠？	成田15→１	頭透かし孔。後頭部隆帯突起列２
5378	青	槐の木	大遮	BC2	○						1/7	9.9				中空			段丘	拠？	成田15→２	後頭部帯縄文下羊歯状文。首Ｓ字文
5379	青	槐の木	大遮	BC2			△	○		◎	1/3	9.3				中空			段丘	拠？	成田15→３	脚境裁痕列。縄文。爪先刻目列
5380	青	槐の木	大遮	C1新？		△			○		小片	6.8				中空			段丘	拠？	成田15→４	写真無。「左足」。肩刻目隆帯
5381	青	槐の木	大遮	BC1？		○	○				1/9	11.7				輪積中空	線		段丘	拠？	成田15→５	正中線隆帯？　磨消縄文。肩隆帯刻目
5382	青	槐の木	大遮	BC2？		△					小片	7.3				輪積中空			段丘	拠？	成田15→６	写真無。乳房前向、周囲列点文。縄文
5383	青	槐の木	小遮	C1古？	△	◎	○	△	◎		3/7	7.3				「中空」			段丘	拠？	成田15→７	摩耗。胴長系列？　Ｃ字文
5384	青	槐の木	x字変形	Ｃ２？	○	◎	◎	◎	◎	○	8/9	4.5		○	？	小型板状			段丘	拠？	成田15→８	図天地表裏逆。「黒付」。胸ほか▽彫去
5385	青	槐の木	小遮	C1古？		○			○		1/8	3.8							段丘	拠？	成田15→９	写真無。部位境裁痕列。背中三段？
5386	青	是川	屈折像Ｂ	C2中		△	○	○			1/6	7.9					バ		低段	拠点	歴博15図112-5	図天地逆。パンツ区画内縄文
5387	青	是川	大遮系統	C2古				△		△	小片	5.1				中空			低段	拠点	〃図113-7	下腹渦巻意匠刻目列。脚境突起列
5388	青	是川	大遮系？	～C2中		△					小片	3.4				中空			低段	拠点	〃図113-8	肩破片？
5389	青	是川	？	晩？？		？					小片	3.5							低段	拠点	〃図113-11	「肩部から腕」。縄文地沈線文
5390	青	是川	結髪	Ａ２？		△					小片	4.4				中空			低段	拠点	〃図114-9	乳房隆帯上沈線。背中平行沈線
5391	青	是川	後期以来	後末？						○	小片	3.9				爪先刻目2			低段	拠点	〃図114-10	膝頭貼付縄文。裏上方形？区画
5392	青	荒谷	屈折像Ａ	～B1古	◎	◎	◎	◎	◎		不明	8.8				★股間貫孔		住穴	低段	拠？	八戸07→p.243	摩滅。腕交差。頭頂首下凹。腕輪？無文？
5393	岩	木賊川	小型無？	BC～C1			○	◎		○	不明	7.3							台地	半？	県教79→12-10	無文。ミガキ
5394	岩	不動Ⅱ	大遮	C1古？				△		○	小片	6.6				中空			低段	拠点	花巻07→75	摩耗。部位境裁痕列。脚短め
5395	岩	高松	結髪	A´古		○			◎		2/9	4.2					線		丘？	散？	県教79→7図9	正中首飾沈線。垂乳。胸つ字文
5396	岩	川岸場Ⅱ	結髪変形	川岸？	◎	○	△				不明	7.3				★頭貫通孔			堤防	拠点	前沢02→11-19	胸刺突列２。脇腹方形区画
5397	岩	川岸場Ⅱ	結髪	A2?	○						小片	4.5		○		中空			堤防	拠点	前沢02→11-20	頭透かし。結髪多重線両端粘土粒貼付
5398	岩	中村Ⅱ	小遮	C1古？		○	◎	◎	○	○	2/3	4.9							丘陵	拠？	平泉02→p.2-6	肥満脚大系列。背中二段？入組文？
5399	岩	中村Ⅱ	屈折Ａ？	～初？	◎	◎	◎	◎	◎	◎	完？	4.6				座像？			丘陵	拠？	平泉02→p.2-7	表裏剥落？→文様？　目楕円沈線？
5400	岩	中村Ⅱ	結髪系？	青木？	◎	◎	○				1/2?	5.3							丘陵	拠？	平泉02→p.2-9	天地逆。全体Ｔ字形。頭刺突。頭頂円文
5401	岩	中村Ⅱ	x字形	Ｃ２？		◎	◎	◎	○	○	7/10	4.3				小型板状			丘陵	拠？	平泉02→p.2-10	縁取文。縁取沈線以外無文？
5402	岩	中村Ⅱ	屈折Ｂ？	Ｃ２？					○		小片	5.6							丘陵	拠？	平泉02→p.2-13	手境沈線。ミガキ光沢
5403	岩	中村Ⅰ	結髪系？	青木？		？	？	？	？	？	不明	2.9				自立			丘陵	拠？	〃p.27-70	細沈線による多重線
5404	秋	オホン・	後期以来	後末？			◎	○		△	1/5	7.4				★肛門刺突	●		堤？	拠？	横手07→10図20	▼短沈線、正中隆帯、パンツ。縄文、刺突
5405	秋	オホン・	大遮系統	A1		△					小片	3			割口	「中空」			堤？	拠？	横手07→10図21	肩黒付。胸二条隆帯刻目列。背中平行沈線
5406	秋	オホン・	小遮	BC2？		△			○		1/9	2.5		○					堤？	拠？	横手07→10図22	手二山突起。文様
5407	宮	矢根八幡	大遮×結	A1		○	○	△	○		不明	5.3				中空	バ		堤防	註13	大崎15→41図1	胸腰刻目隆帯。腕多重線。腰上パン線
5408	宮	矢根八幡	大遮系？	A1					○		小片	1.6				中空			堤防	註13	大崎15→41図2	5407と同一個体？　腰上平行沈線多
5409	宮	矢根八幡	結髪？	A1？		△					小片	2.4				中空			堤防	註13	大崎15→41図3	丸い乳房。肩上、脇腹平行沈線
5410	宮	矢根八幡	大遮系統	A1		○	△		○		1/6	3.5				中空			堤防	註13	大崎15→42図1	肩に二個一対の小突起。胸刻目隆帯
5411	宮	矢根八幡	屈折Ａ？	後末？					？		不明	5							堤防	註13	大崎15→42図2	細長い途中に隆帯２。1655類例？土偶？
5412	宮	矢根八幡	？	晩？？		○	△				不明	5				板状			堤防	註13	大崎15→42図3	乳房。無文？
5413	宮	矢根八幡	結髪	A1？		△	○	△			1/10	6				中空			堤防	註13	大崎15→42図4	丸い乳房。脇腹つ字文二段。腰平行線
5414	宮	矢根八幡	屈折Ａ？	後末？					？		不明	6							堤防	註13	大崎15→79図1	細長い弧。無文。1655類例？土偶？
5415	宮	矢根八幡	屈折Ａ？	後末？					？		不明	5.7				土偶？			堤防	註13	大崎15→79図2	細長い途中に突起。沈線。1655類例？
5416	宮	矢根八幡	大遮系？	A1		？					小片	2.5				土偶？			堤防	註13	大崎15→79図3	「肩」。平行沈線
5417	宮	矢根八幡	大遮？？	C1古？	△						小片	3				中空			堤防	註13	大崎15→94図1	摩耗。口貫通孔。土偶？違和感
5418	福	邸下	後期以来	B1新？	○						不明	4.7							下段	小？	福島03→177-7	後頭トグロ粘土。目下弧線→遮光器眼の元？
5419	福	上田郷Ⅵ	有髯	～末	○						不明	6.4				「優品」			段丘	散？	県教98→83-21	丁寧なミガキ。髪と髯集合沈線
5420	福	横山Ｂ	有髯	末？	◎						不明	3						住居	中？	小？	いわ01→29-33	横長。顔短沈線多。
5421	福	横山Ｂ	有髯	末？	○						不明	5.7							中？	小？	いわ01→166-1	縦長。目尻～口元短沈線。「縄文中期」
5422	福	番匠地	結髪系	後葉～	○	○	○				不明	7.7					◎		湿？	小？	いわ93→196図1	乳大。正中、背中竹管文列（背中１列）
5423	福	番匠地	結髪系？	後～？	？						小片	5.4							湿？	小？	いわ93→196図2	「足」結髪？　短沈線放射状方向
5424	福	番匠地	刺突系？	後～？						△	小片	1.5							湿？	小？	いわ93→196図3	爪先作出。足裏角張った楕円形
5425	福	番匠地	刺突系？	後～？		△			○		不明	5.4							湿？	小？	いわ93→196図4	肩渦巻文刺突列。2252類例？？
5426	福	番匠地	刺突系？	後～？						○	不明	5							湿？	小？	いわ93→196図5	脚円柱状。上方沈線刺突列。足裏楕円形
5427	福	薄磯貝塚	？	「晩」					？	？	不明	4.5				ミガキ			丘陵	拠点	いわ14p.175-13	「右腕？」Ｏ脚？足の形そら豆状

田中忠三郎氏から購入したコレクションの一部報告だが、「土偶や土版については形状が判明するものはほぼ全てを収録している」（報告書：p.7）。観察表はほぼ法量のみで、付着物の有無等観察事項に不明瞭な点があるが、報告書の鮮明なカラー写真を頼りにした。掲載土器は、大洞Ｂ１～Ｃ２式がほとんどで、大洞BC2式が最も多いが、大洞Ａ２式、縄文時代後期前、後葉も見られる。土偶は、この傾向に沿うが、岩版・土版では、５類が２点、６類が１点あり（稲野1983）、新しい方もまとまった数が見られる。次節槻の木遺跡資料参照。報告書図39の12は、施文や整形が丁寧なのに人らしさを感じさせず土偶ではないと判断して割愛した。第14表5187について、報告者は「胸部で交わる箇所に一対の粘土粒が貼り付けられるのは」5186「の大型品と同様である」という鋭い観察を示しているのに、5189と5190を同一個体と見なしている。大きさのバランスが合わないし、時期も違う可能性が高い。5196は、小型遮光器土偶とｘ字形土偶の折衷で、津軽地方には比較的よく見られ（前稿⑺）、本例の胴部文様はｘ字形土偶のそれだが、プロポーションや顔が比較的写実的で鼻の作出も見られる。

・階上町道仏鹿糠遺跡（第14表5208～5210）（青森県教育委員会2017）

本稿⑸（金子2015a）で扱った平成21年度調査区の隣接地である。三陸自動車道建設に伴い27,000㎡調査され、縄文時代の落とし穴が主に発見された。縄文時代晩期後葉～末の土器が比較的まとまって出土している。第14表5210は、全く同様のものが２点前回の調査でも出土している（本稿⑸第７表3621、3622）。報告書では「小型遮光器土偶の脚部と考えられる」とするが（p.65）、前回の調査も含め晩期前半の土器は全く出土していないようである。円柱状の点が気にかかるが、土器の脚か。

（３）岩手県

・洋野町宿戸遺跡（第14表5211～5213）（（公財）岩手県文化振興事業団2021）

海成段丘の中位傾斜地に立地するが見た目では丘陵状を呈す。三陸自動車道建設に伴って調査され、調査区は、谷を挟んで標高の低い北区（8,000㎡）と標高の高い南区（9,400㎡）に分かれ、北区では、縄文時代後期前葉？、後期中葉、後期後葉、晩期後葉、弥生時代後期の竪穴住居が断続的に見られ、南区では、縄文時代早期中葉～前期前葉の拠点的集落跡と中期後半の集落跡が主に検出されている。掲載土器は、本稿の対象である縄文時代後期末～弥生時代は僅かであり、大洞Ａ１式が比較的まとまっている程度で、土偶と同時期と考えられる土器は見られないようである。表には三点の土偶を掲載したが、二点は土偶でない可能性も高く、出土したのも南区である。大洞Ａ２式期の結髪土偶（本稿⑴＝第１表1079、1080）を出土した戸類家（いくつなみ）遺跡は、本遺跡の北西約２㎞と近い。

・八幡平市松尾釜石環状列石遺跡（第14表5214～5233）（八幡平市教育委員会2017）

遺跡名は報告書に依拠し、表の掲載箇所欄の「図Ⅴ―」は省略した。昭和28（1953）年に行われた学術調査の報告である（約400㎡）。縄文時代晩期の集落跡（配石遺構主）が検出され、概ね瘤付土器第Ⅲ段階～大洞Ａ１式土器が主で、大洞Ｂ２～ＢＣ２式をピークとし、後期末や大洞Ｃ２～Ａ１式は僅かである。松尾鉱山資料館保管資料には谷起島式古期もあり、表5228～5233は、「資料館に保管されていた釜石環状列石出土と思われる資料である」（報告書：p.183）。調査出土土偶は遮光器土偶がほとんどで、大洞Ｃ２式期以降の大型遮光器系列もある（5227）。より後期に系統性の強い大洞B2式期の大型遮光器系土偶が興味深いが（5214）、実測図は接合前の下半身のみである。資料館保管土偶５点も含め、晩期前半を主とした後期後半～晩期中葉土偶がほとんどだが、資料館土偶の中に晩期後葉例がある。

・宮古市乙部野Ⅱ遺跡（第14表5234～5240）（（公財）岩手県文化振興事業団2018）

三陸自動車道建設に伴い4,494㎡（幅約30m）調査され、縄文時代前期前葉の集落跡（住居５）、後期初頭～前葉前半の集落跡（住居44、韮窪式期の狩猟文土器）、弥生時代前期末の集落跡（住居

11）が検出された。金子（2021a）では半拠点集落に位置づけたが、今回拠点集落に改めた。

当該期の土器は弥生時代前期末のみ、明確に認識できるのは青木畑式のみである。土偶は17点出土したとされ（報告書：p.173）、掲載された16点のうち当該期の土偶は７点で、１点は結髪土偶、他は刺突文土偶である。報告書第178図1272は、観察表で土器片の可能性が指摘されているとおり土器と判断して割愛した。残存部分の多い破片がほとんどないのが印象的である。

・山田町浜川目沢田Ⅰ遺跡（第14表5241～5251）（（公財）岩手県文化振興事業団2018）

震災復興に係る土地造成に伴い6,240㎡調査され、縄文時代中期後半の集落跡（住居21）が主として発見され、後期中葉の竪穴住居跡１棟、晩期中葉の竪穴住居跡１棟も検出されている。海岸から約200m、標高２～７mという特異な場所に立地する。当該期土器は、後期から続き大洞Ｃ２式古期まで出土し、大洞ＢＣ２～Ｃ２式古期が多数を占め、大洞Ｂ２～ＢＣ１式は少なく、それ以前は僅かで、拠点集落とするにはややためらう。当該期の土偶は11点で、後期前～中葉の方が多い。報告書第199図3303は、脚が湾曲していることから後期と判断した（「土偶とその情報」研究会1994：岩手県萪内、立石遺跡等）。１点を除き遮光器系列である。

・山田町畠中遺跡（第14表5252～5253）（山田町教育委員会2020）

船越半島の大浦低地に向かって西傾する緩斜面に立地し、東日本大震災被災移転に伴う道路整備で1,000㎡調査された（幅約６m）。縄文時代後～晩期の集落跡が主として発見され、当該期では瘤付土器第Ⅳ段階～大洞A’式新期が見られるが、大洞A’式古期は不明瞭である。大洞Ｃ１～２式が多く掲載される。当該期は２点だが、後期前葉の土偶は４点で瘤付土器第Ⅰ段階の人面付突起も出土した。

・花巻市不動Ⅰ遺跡平成28年度調査（第14表5254～5258）（花巻市教育委員会2018）

豊沢川右岸の低位段丘北縁に立地する。一帯では、土地区画整理事業に伴う発掘調査が継続して行われ、不動Ⅰ遺跡東半の北側緩斜面では縄文時代晩期の集落跡が検出されているが、これまでに出土していたのは、小型無文土偶の小片のみであった（本稿⑸第７表3686）。不動Ⅱ遺跡の不動Ⅰ遺跡に隣接する部分から大型遮光器土偶が出土している（本稿遺漏資料）。今回の調査は個人経営の賃貸住宅建設に伴うもので、調査面積は約867㎡、縄文時代晩期の集落跡（埋設土器９ほか）と東側の不動Ⅱ遺跡から展開する平安時代集落跡（住居２）、江戸時代以降の屋敷建物跡が検出された。掲載土器は、後期前葉、晩期前～後葉大洞ＢＣ２～Ａ２式で、晩期中葉を主体とし、この時期を主体とする土・石製品も出土している（金子2021a：p.26）。土偶は、記載および観察表が僅かで、付着物等詳細は不明である。不掲載だが、観察表には、あと４点の土偶の出土が記されている（報告書：p.37）。

・釜石市屋形遺跡（第14表5259～5270）（釜石市教育委員会2019）

屋形遺跡出土資料については、同じ調査区の県埋蔵文化財センター調査分を本稿⑸（金子2015a）で扱っている。津波避難道路建設に伴い1,714㎡調査され、計画変更により貝塚は残され国史跡に指定された。遺跡は、リアス海岸半島部の狭い入り江から斜面上の平坦地に広がり、縄文時代前期前半、前期末～中期前葉、中期後葉～後期前葉、弥生時代前期末、平安時代、中世、近世の集落跡が複合し、中近世の土地造成により削平された部分が多いそうである（報告書：p.456）。縄文時代中期末～後期初頭の貝塚が発見され、弥生時代前期末の集落跡は、遺物集中が認められただけである。

当該期では、大洞Ａ´式古期に遡りそうな土器もあるが、大洞Ａ´式新期～青木畑式期が多くを占め、一点だけ大洞A1式土器の台部が掲載されている（報告書：第Ⅳ-6-81図31）。土器以外の土・石製品では、土偶12点以外に明瞭なものがない。刺突文土偶に著しく偏り、結髪土偶がほとんど見られないのは、何か意味があるのだろうか（金子2017a：pp.39～40）。

報告書に土器以外の土製品の観察表がなく不明な点がある。第Ⅳ-2-20図（p.97）の５は、上部の剥

落の仕方（接合の仕方）が土偶にしては不自然、６は形状が土偶らしくない、７は無機質な印象から、報告者も触れているとおり（p.77）土偶でないと判断して割愛した。第Ⅳ-6-67図（p.204）の58の土製品については、報告書にふれられておらず、結髪土偶の頭部の可能性もあるが割愛した。第Ⅳ-6-109図（p.255）の12は、板状で、大きめの刺突が列をなしており、土偶以外の土製品と思われ割愛した。第Ⅳ-6-119図（p.266）の５は、「中空土偶の一部」（報告書：p.124）とされるが、高坏か浅鉢の口縁部突起と推測して割愛した。

・**大船渡市扇洞遺跡**（第14表5271）（岩手県教育委員会2016）

三陸自動車道建設に伴い406㎡調査され、縄文時代晩期末～弥生時代後期前葉の集落跡（住居７棟）が主として検出され、掲載土器のほとんどは、縄文時代晩期末～弥生時代中期中葉である。

・**大船渡市宮野貝塚平成24年度調査区**（第14表5272～5274）（大船渡市教育委員会2016）

宮野貝塚出土資料については、平成８～11年の個人住宅建設に伴う緊急調査分を本稿⑷（金子2014）で扱っている。平成24年度は、震災後の個人住宅建設に伴い112㎡調査され、第17次調査に相当し、南方向に傾斜する遺跡範囲の中で、中央付近の西寄りに位置する。縄文時代晩期前半の埋設土器などが検出され、掲載土器は、当該期では、僅かな瘤付土器第Ⅲ段階から時期を追うごとに徐々に増えていき、大洞Ｃ１～２式でピークを迎えるが、その後は僅かなＡ式、青木畑式？しか見られない。また晩期中葉土器もそれほど多くはなく破片が主体である。

・**大船渡市宮野貝塚平成25年度調査区**（第14表5275～5276）（大船渡市教育委員会2015）

平成25年度は、消防関連施設建設に伴い810㎡調査され、第19次調査に相当し、南方向に傾斜する遺跡範囲の中で、ほぼ中央付近に位置する。調査区西側は、公民館建設時の削平・改変が多かったようである。古代の集落跡（平安時代竪穴住居１、粘土採掘坑とされる土坑多数）を主体とし、縄文時代の土坑も検出された。縄文時代早期中葉から長期にわたる土器が出土する遺跡だが、今回は出土土器の約半分が縄文時代前期だったそうで（報告書：p.80）、当該期の掲載土器は少ない。大洞Ａ１式が比較的多く、ついで大洞ＢＣ２、Ｃ１、Ｃ２式である。

・**大船渡市宮野貝塚**（第14表5277～5279）（（公財）岩手県文化振興事業団2016）

警察駐在所建設に伴い375㎡調査され、第20次調査に相当し、南方向に傾斜する遺跡範囲の中で、南方に位置する。土器は、これまでと同様縄文時代前期前葉～晩期末が掲載されているが、当該期では、大洞Ｂ１式新期～大洞Ａ’式古期が見られる。大洞Ｃ１式およびその前後が比較的多い。

・**大船渡市大洞貝塚平成27年度調査区**（第14表5280）（大船渡市教育委員会2016）

大洞貝塚出土資料については、本稿⑴（金子2010a）、⑷（金子2014）でも扱っている。

個人住宅再建に伴って約743㎡調査され、調査範囲は、遺跡範囲の南東隅に位置する。掘立柱建物跡や炉跡が検出され、当該期では大洞Ａ１式が比較的多いが、全体的にそれほどの出土量ではない。

・**大船渡市長谷堂貝塚平成26年度調査区**（第14表5281～5284）（大船渡市教育委員会2018）

長谷堂貝塚出土資料については、本稿⑸（金子2015a）でも扱っている。個人住宅建設に伴い57㎡調査され、遺跡範囲の西側、斜面下方の早稲田大学によりＤ地点貝塚と呼ばれた場所に位置する。縄文時代後期末～晩期前葉の集落跡（住居２、埋設土器）が主に発見された。副葬品と考えられるクラゲ栓状で環状の土製耳飾（金子2009：第１表＝第１図右端中段の３）が１点埋設土器から出土している。当該期では、瘤付土器第Ⅲ段階～大洞Ｃ２式が掲載され、大洞ＢＣ２式が最も多く、次いで大洞ＢＣ１、Ｂ２式で、それ以外はあまり多くなく、瘤付土器第Ⅲ段階、大洞Ｂ１、Ｃ２式は僅かである。

5281のようなガニ股は、東北南部によく見られる。5283は、四肢の破片だが裁痕列が見られない。報告書では「左腕」とされるが、磨消縄文が浮彫的で大洞ＢＣ２式期の可能性があるが隆帯など見ら

れず肩と考えにくく、腕あるいは脚部分が、大きいのに短めになりつつあり大洞ＢＣ２式期の脚の特徴に合致すること（この時期腕は小さくなり始めている）などから、大洞ＢＣ２式期の腰～脚と判断した。

・**大船渡市長谷堂貝塚平成26年度調査区**（第14表5285）（大船渡市教育委員会2020）

個人住宅建設に伴い約310㎡調査され、遺跡範囲の西端付近、斜面下方に位置する。縄文時代早期後半、平安時代の集落跡が主に発見された。掲載土器は、当該期の土器は少ないが、瘤付土器第Ⅲ～Ⅳ段階、大洞Ｂ２～Ａ１式、A'新期が見られ、大洞Ｃ２～Ａ１式が比較的多いか。

・**大船渡市長谷堂貝塚立会調査区**（第14表5286～5288）（大船渡市教育委員会2021）

個人住宅建設に伴い立会調査が行われ、重機での掘削状況を確認している。焼土や土坑、遺物包含層が確認された。縄文時代中期後葉、後期前葉～弥生時代前期末の土器が掲載され、当該期では、瘤付土器第Ⅲ、Ⅳ段階、大洞Ｂ１新～青木畑式が見られ、晩期前葉と大洞Ｃ２式以降が比較的多い。

・**陸前高田市獺沢貝塚**（第14表5289）（陸前高田市教育委員会2018）

獺沢塚出土資料については、本稿⑴（金子2010a）、⑸（金子2015a）でも扱っている。

個人宅地造成に伴って約235㎡調査され、攪乱のみで遺構は検出されていない。出土量は少なく、土器は、縄文時代後期前～中葉、大洞A'式古、新期が掲載されている。

（４）秋田県

北秋田市小勝田館跡出土で「遮光器土偶」とされた資料がある（秋田県教育委員会2015：p.56）。写真が不鮮明ではっきりしない点もあるが、そのようには見えず、掲載土器も、この時期のものはないようなので、割愛した。由利本荘市鐙田遺跡出土資料については、本稿⑵で資料化しているが、報告書不掲載の土偶が報告されたので（根岸2021）補った（第14表5304）。写真のみだった資料も実測され（第２表1889）、全ての資料に観察表が付されている。

・**八郎潟町下台遺跡**（第14表5290～5295）（弘前大学2017）

学術調査で72㎡調査し、縄文時代晩期後葉（略大洞Ａ２式期）の集落跡（住居６棟）が検出された。

・**五城目町中山遺跡**（第14表5296～5299）、**男鹿市大沢Ⅰ遺跡**（第14表5300～5303）（弘前大学2018）

弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センターが、八郎潟沿岸の亀ヶ岡文化研究のため、周辺市町村の調査資料等を再整理したもので、実測図、観察表が掲載されている。

中山遺跡出土土偶については、本稿⑵で扱っており、重複する第２表1668、1911～1915については割愛したが、今回1915の赤色付着物が判明したことを補足しておく。

大沢Ⅰ遺跡の図50-11、図53-2585の土偶は、後期末以降と判断する材料が全くないので割愛した。なお、図53-2584は、土偶とされているが、報告書奥付上に掲載されている乳房のような人的要素を持つ美々４型中空動物形土製品（金子2017b：p.110）の一例と思われるので、割愛した。

（５）宮城県

七ヶ浜町二月田貝塚の昭和63（1988）年調査の報告が、東宮貝塚の平成29（2017）年調査の報告と合本で刊行された（七ヶ浜町教育委員会2019）。ただし、土偶については、「土偶とその情報」研究会の平成８（1996）年シンポジウム資料集で既に報告されていて、本稿でも資料化されている（⑵第２表2082～2085）。シンポジウム資料集に観察表はないが、今回特に新たに分かった事実もないので割愛する。なお、１点だけ今回新たに報告された「土偶脚部？」という小破片があるが、写真もなく、土偶と見なす積極的な理由もないので、これについても割愛した。

・**南三陸町大久保貝塚**（第14表5305～5306）（宮城県教育委員会2019）

東日本大震災で被災した国道の仮設道路建設のための確認調査の報告である。397㎡調査され、縄

文時代晩期後半の貝層・遺物包含層が検出された。掲載土器は大洞Ｃ２～A1式に限られるようだが、量が多く、半拠点集落だろうか。

・栗原市山王囲遺跡（第14表5307～5327）（弘前大学2021）

1965（昭和40）年の小学校体育館建設に伴う東北大学の調査出土遺物の報告で、現在三分冊まで刊行され、Ⅰは漆器編、Ⅲは土器編１（西区Ⅲ層・Ⅳ上層出土土器編）となっている。弘前大学の関係者には頭が下がるが、土偶については、本文中に誤植があり（註１）、また、遺物観察表にほぼ法量しか書かれておらず、付着物の有無等細かい観察事項に不明瞭な点がある（註２）。図中に盛り込んだので割愛したのかもしれないが、観察表を添付するなら、明瞭に示していただくと有り難い。

土偶は22点あり（同一個体１）、意外に大洞Ａ１式期までの古い方がほとんどを占める。この点からも、この地域の土偶が、弥生時代中期の消滅（金子2015c：p.72、金子2017a：pp.40～44）に向けて晩期末以降衰退し始める状況が読み取れるのかもしれない。単に出土土器の傾向に符合しているだけかもしれないが、一部層の土器の報告書しか出ていない現時点では、わからない。

関連遺物として、岩版５点、土版５点（円形無文１点除く）、石剣類68点、独鈷石４点、土製耳飾53点、石製玉類31点、土製玉類789点、円盤状石製品343点、鹿角製腰飾２点、漆塗貝（イシガイ科？）製品４点などがあるとされる。岩版、土版は、稲野彰子氏の編年（1983）によれば、４類が１点（岩）、５類が５点（岩３）、６類が４点（岩１）である。土製玉類のうち399点は、瓢箪小玉（金子2006）である。三角玉（「Ｖ字形垂飾」含む）は４点で、全て中間型と推測され大洞Ａ’式古～新期の可能性がある（金子2011b）。土製耳飾は、大洞Ｃ２式新期～大洞Ａ１式期と思われるＣ２ネジ形（角型）（金子2010b）が主で39点、その他の14点は、臼状、猪口状で、より古い晩期中葉（あるいはそれ以前も）のものも含まれるようである（金子2009）。報告書Ⅰの漆器編（2020年）では、漆塗櫛42点、腕輪26点、耳飾12点などが資料化されている。

・大崎市いもり塚周辺遺跡（第14表5328～5340）（大崎市教育委員会2021）

ほ場整備事業に伴い範囲確認調査を実施し、事業によって影響を受ける範囲について事前調査等を行っている。調査区はトレンチ状で詳細な面積は不明。縄文時代晩期後葉～弥生時代前期末の集落跡が発見されているが、遺物包含層を主体とする。当該期の土器は、僅かな縄文時代後期末以外では、大洞Ａ２式～大洞Ａ’式新期しか見られないようで、大洞Ａ’式古期が最も多いようである。

土偶は13点出土している。結髪土偶あるいは刺突文土偶の範疇に入るものがほとんどだが、劣品が多い。第14表5334は結髪土偶の可能性もなくはないが、いずれにしても大洞Ａ１式期の可能性が高く、明確な大洞Ａ１式土器が見られないという出土状況に符合しない。報告書第42図５は、雑なつくりだが、剥離の仕方から土器の脚と判断して割愛した。第96図５の「土偶？」とされている紡錘状土製品は、整形具合から結髪土偶かとも思われたが、それらしい部位を特定できず割愛した。

・大崎市北小松遺跡（第14表5341）（宮城県教育委員会2020）

前回取り上げるべき資料だったが、本遺跡の報告があるとは気づけず遺漏した（付章として盛り込まれている）。ほ場整備事業に伴い幅２～３ｍのトレンチを75か所設定し確認調査したものである。遺構は検出されず、縄文土器、土偶、土師器、須恵器が出土し、本土偶のみ掲載されている。

・大崎市通木田中前遺跡（第14表5342～5343）（大崎市教育委員会2021）

ほ場整備事業に伴う範囲確認調査である。約8,062㎡トレンチ調査で遺構検出が行われ、一部本調査が行われているようである。基本土層Ｖ層（当時湿地）から縄文時代晩期末～弥生時代前期の遺物が出土し、古墳時代、古代、中近世の遺構も検出された。当該期の土器は、大洞Ａ２式～青木畑式。

・大崎市お椀子山遺跡（第14表5344）（大崎市教育委員会2019）

ほ場整備事業に伴う確認調査で、約1,082㎡トレンチ状に調査された。主として奈良時代の遺構が検出され、土偶も、この時期の溝跡から出土している。図化できない程度の縄文土器破片が出土し、これらの遺物は周囲からの流入と考えられている。出土した土偶の体形は、ずんぐりして、どちらかと言えば結髪土偶に近いが、腰以外の場所に刺突が施されているので刺突文土偶の範疇で考えた。

・仙台市川前遺跡（第14表5345～5347）（仙台市教育委員会2018）

土地区画整理事業に伴い240㎡調査された（幅５ｍのトレンチ状調査区）。大洞Ｃ２式期を主体とする二枚の遺物包含層、大洞Ｂ２式期を主体とする遺物包含層が検出され、その下で縄文時代後期末～晩期初頭の集落跡（住居３棟）が発見された。当該期の土器は、瘤付土器第Ⅳ段階～大洞Ａ１式期？（大洞Ｃ２式第Ｖ段階？）（高橋1993）で、大洞Ｃ２式古期がほとんどを占め、次いで大洞Ｂ２式で、その他の時期はあまり多くない。

土偶は４点出土しているが、第347図９は、短い棒状の破片で、土偶かどうか確証が持てないので割愛した。第14表5346は首を凹ませず沈線で区画するのみのもので、同様のものが宮城県北部に見受けられ（金子2011a：第２表2042、2059）、いずれも大洞Ｃ２式前半に位置づけられる。宮城県の地域的な土偶と言えるだろうか。出土した岩偶１点は、土偶と全く無関係の独自のデザインである。

（６）山形県

・大蔵村上竹野遺跡（第14表5348～5351）（（公財）山形県埋蔵文化財センター2019）

国道バイパス建設により5,119㎡調査し、縄文時代後期後葉（瘤付土器第Ⅱ、Ⅲ段階）、弥生時代前期末～中期前半の集落跡が主に発見され、当該期では、大洞Ａ２式以降の土器が多く、大洞Ｂ１？、Ｃ１～２式土器が僅かに見られる。土偶以外は石剣類が４点程度で、他は装身具のみである。結髪土偶の方が多い山形県あるいは日本海側なのに（金子2020b、2021b：p.15）、この遺跡からは刺突文土偶しか出土していない。本稿⑵第２表2142例も同様だが、その実測図が本報告書に掲載されている。

（７）福島県

・富岡町毛萱館跡（第14表5352）（福島県教育委員会ほか2020）

県道建設に伴い10,000㎡調査された（幅約40ｍ）。城館跡だが、弥生時代中期後半の集落跡（住居12棟）なども検出されている。弥生時代中期の土偶（本稿⑵第２表2245）で有名な毛萱遺跡に隣接している。土偶１点も、弥生時代中期後半の竪穴住居跡から出土しているが、覆土の上層であり、その特徴からも、そこまで下るとは思えない。ただし、晩期末の土器の掲載はない。

・楢葉町高橋遺跡（第14表5353～5354）（楢葉町教育委員会2019）

震災後に計画された地域開発事業に伴う大型建物建設予定地約4,000㎡の発掘調査報告で、後期中葉の男性土偶で注目を集めた。縄文時代後期中葉～晩期末、奈良～平安時代の集落跡が主に検出された。縄文時代の集落跡は、時期による盛衰が著しく、後期中葉が最も繁栄し、晩期前葉以降は概ね衰退する。したがって表にした土偶は三点あるが（5354は同一個体二点）、時期による遺跡の評価を違えた。また、土偶は全部で42点出土し、これ以外にも該当土偶が存在する可能性もあるが、無文のものは判断できない。ただし、他の土製品も含め、三点以外のほぼ全て後期に収まるものと考える。

４．これまでの遺漏資料（本稿⑹以前に報告された資料の遺漏分）

青森県つがる市亀ヶ岡遺跡（第15表5355～5364）、八戸市是川（第15表5386～5391）出土品（国立歴史民俗博物館2015）は、青森市在住だった田中忠三郎氏から購入もしくは入手したコレクションの一部の報告である。資料番号が長いので、掲載箇所欄では共通部分を省略している。青森県南部町剣吉荒町遺跡出土資料（県道改築に伴う県調査）については、本稿⑹で取り上げているが（第12表4551

～4555)、引用文献が漏れていたので本稿に示しておく（青森県教育委員会2015)。福島県福島市大平・後関遺跡（第10表4455～4456）についても同様である（福島市教育委員会2005)。福島県相馬市東羽黒平遺跡出土資料（第10表4472）もである（福島県教育委員会ほか2015)。

・青森県弘前市清水森西遺跡（第15表5365～5369）（工藤1978）

前節の新報告資料で、本報告の存在を知った。掲載誌も渉猟していたはずだが、「土器」という題名とほとんどが土器の細かく詰め込まれた図の最後の中段に土偶があったため、見逃したのであろう。前節の新報告とあわせ土偶10点となり、青森県垂柳遺跡、秋田県横長根Ａ遺跡と並んで、弥生時代中期の土偶多出遺跡の一つとなる（金子2017a)。工藤国雄氏の報告では、土玉も８点掲載され、そのうちの４点は花弁平玉のようであり（金子2011c)、これまた重大な遺漏であった。

・青森県旧平賀町大光寺城⑵遺跡（第15表5370）（平賀町教育委員会1988）

住宅建設に伴い216㎡調査された。調査面積が狭いこともあって詳細不明である。立地は、舌状台地（報告書：p.2）あるいは「なだらかな丘陵」（同：p.20）で、周囲は低湿地である。平安時代の集落跡と中世居館（堀跡）が主に発見され、総数70点ほどの弥生時代中期中葉の土器片に縄文時代後期前葉の土器片が１点出土した。弥生土器のほとんどは、堀跡から出土し、土偶も同様である。田舎館式土器の「器種がほぼそろっているのと土偶が出土している事から、丘陵を利用した小規模な集落が形成されていたものと思われる。土器に籾や炭化米と思われる圧痕が認められることから、周辺の低湿地を水田に利用して稲作をおこなっていたものと思われる」（報告書：p.2）とされる。

・青森県旧平賀町石郷⑴遺跡（第15表5371～5372）（平賀町教育委員会1995）

消防屯所建設により48㎡調査された。本稿⑹で収集した、1974（昭和49）年調査地点から約200m離れた地点とのことである。時期・性格とも同様の成果が得られているが、調査面積が狭いためか、同じ遺跡なのかどうか明らかにしていない（註３)。夥しい遺物が出土したとあるため（報告書：p.5）拠点集落と判断したが、遺構は、晩期前葉（大洞Ｂ２式？）らしい土器埋設遺構１基のみである。瘤付土器第Ⅱ段階～大洞ＢＣ２式が出土しているようだが、瘤付土器第Ⅲ段階が主に掲載されている。

・青森県青森市篠原遺跡（第15表5373～5376）（青森市教育委員会2006）

土偶が地点ごと別々に掲載され、さらに縮尺が小さく（写真図版は小さすぎて見えない)、見逃した。農道敷設に伴い約250㎡調査され（幅約３ｍ)、縄文時代晩期？の土器埋設遺構６基などが検出された。縄文時代後期前葉の土器が最も多く掲載され、ついで晩期前～中葉大洞Ｂ２～Ｃ１式である。

・青森県平内町槻の木遺跡（第15表5377～5385）（成田2015）

あまりに図に難があるため資料に含めるのに躊躇した。しかし、他の報告に同様のものがないわけでもなく、何より“実測図のあるものは資料に含める”という原則に反するので、今回資料に含めることとした。『青森県史資料編考古２』（2013年）中の写真を頼りに解読したが（p.429)、図２の４と図３の６、図４の９の写真はなく、誤解している可能性もある。図４の10は、「土偶とその情報」研究会（1996）の資料集で、北中野とされている資料と分かったので（本稿⑵第２表1148)、重複を避けるため割愛する。補足すると高さ９㎝。また、図４の11～15は、報告者が直接観察しておらず、写真トレースしただけのようなので割愛した。前節⑴槻の木遺跡資料参照。

・青森県八戸市荒谷遺跡（第15表5392）（八戸市2007）

本来本稿⑹第８表で取り上げるべき資料だったが、報告書掲載遺物が写真を基本としていたため失念した。大型遮光器土偶や結髪土偶、刺突文土偶も掲載されているが、写真のみである。

合併前の村道改良に伴う事前調査で1,910㎡調査され、野外調査、報告書作成とも、大変な苦労を乗り越えて行われた。調査区は新井田川に沿い、縄文時代前期後葉～中期前葉の集落跡（住居７)、

後期後葉～晩期前葉の集落跡（住居６以上）、晩期末～弥生時代前期末の集落跡（大規模配石遺構）、平安時代の集落跡（住居２）が主に発見されている。当該期の掲載土器は、瘤付土器第Ⅲ段階～青木畑式で、大洞Ａ’式新期が最も多く、次いで大洞ＢＣ２式で、瘤付土器第Ⅲ段階、晩期中～後葉は僅かである。瘤付土器第Ⅳ段階～大洞Ｂ１式古？期の竪穴住居内の小穴内から屈折像Ａ類土偶が出土している。報告書では縮尺が不明瞭なので、『青森県史資料編考古２』（2013年）内の縮尺に従った。

・岩手県花巻市不動Ⅱ遺跡（第15表5394）（花巻市教育委員会2007）

土偶の図がわかりにくく、遺跡も本来平安時代の集落であったため見落とした。一帯では土地区画整理事業に伴う発掘調査が継続して行われ、この第14次調査区1,202㎡は、西側に隣接する不動Ⅰ遺跡に近い。不動Ⅰ遺跡の東半の北側緩斜面では、縄文時代晩期の集落跡が検出され、不動Ⅱ遺跡は平安時代の拠点的な集落跡を主とするが、今回は不動Ⅰ遺跡から連続する晩期集落跡も検出された（炉跡２、埋設土器11）。縄文土器は。瘤付土器第Ⅳ段階？、大洞Ｂ２式～Ａ１式？が掲載され、大洞ＢＣ２式と大洞Ｃ２式が多いが、なぜか大洞Ｃ２式は粗製土器がほとんどである。

・岩手県旧前沢町川岸場Ⅱ遺跡（第15表5396～5397）（前沢町教育委員会2002）

本稿⑸に県埋蔵文化財センターの調査資料がある。報告書が県埋蔵文化財センターになく見落としていたものだが、第15表5396は、重大な遺漏であった。。出土した弥生時代遺物包含層掲載土器のほとんどは、中期中葉川岸場式（石川2005）だからである。確かに、背中の刺突文が肩両端に続き、胸の刺突列が乳房にかかるなど、弥生時代中期前半の特徴に共通し（金子2015c：p.71）、脇腹の区画は岩手県橋本遺跡の弥生中期後葉の例（本稿⑴第１表1021）につながるものである。弥生時代中期前葉谷起島式中期に当地域の土偶はいったん消滅すると考えたのは早計であったか（金子2017a）。しかし、同じ包含層から出土したらしい5397は、弥生時代前期末以降に下ることはあり得ず、撤回するには、もう少し様子を見たいと思う。

・岩手県平泉町中村Ⅱ、Ⅰ遺跡（第15表5398～5403）（平泉町教育委員会2002）

「縄文とやきものの時代村」事業に伴う内容確認調査（トレンチ式）の概報である。出土量の割に掲載遺物が少なく、後期前～中葉の土偶も多いので注意を要する。個々の遺物の記載は僅かである。土偶のほか、５類（稲野1983）の土版破片１点などが出土している。

・秋田県横手市オホン清水遺跡（第15表5404～5406）（横手市2007）

表採資料の報告である。遺跡は、ほ場整備に伴い市により調査され報告書も刊行され、結髪土偶が掲載されているようだが、近くに報告書がなく資料化できていない（本稿⑹：p.39）。

・宮城県大崎市矢根八幡遺跡（第15表5407～5417）（大崎市教育委員会2015）

ほ場整備に伴って行われた調査報告である。工事に先駆けて範囲確認調査を行い（1,168㎡）、その後、排水路掘削予定部分の本調査（4,087㎡）、作業用道路部分の確認調査（2,480㎡）が行われた。いずれも幅３ｍ程度のトレンチ状調査である。土偶が出土したのは全て本調査区で、約160ｍの範囲に比較的近接している。第15表5407～5413が出土したＩ調査区では、比較的多くの土器が出土し、縄文時代後期中葉～大洞Ａ２式が見られるが、晩期前葉は僅かで大洞Ａ１式がほとんどを占める。5414～5416が出土したＪ調査区では、出土時期にあまり違いはないが前半の方が多く量は少ない。5417が出土したＮ調査区では、大洞Ｃ１～Ａ２式が出土し、大洞Ａ１式の割合が他より高い。

第15表5407は、大型遮光器系統と結髪土偶の折衷土偶。5407と5408は、接点はないが同一個体の可能性が指摘されている（報告書：p.206）。5417は、大型遮光器土偶の左顎として復元されている。写真を見ると違和感をぬぐえないが、摩耗しているためか。ただし、違うとも言えず、周囲から出土した土器も同時期のものがあるので、資料に含めた。報告書第41図４は、磨消縄文と刺突列から後期中

葉の土偶と判断し、５は土偶の「頭頂部突起」に見えないので（土器の突起？）、割愛した。

・福島県広野町上田郷Ⅵ遺跡（第15表5419）（福島県教育委員会ほか1999）

常磐自動車道建設に伴って行われた第１次分（5,800㎡）の調査報告である。遺跡は上下二段の河岸段丘に広がり、高い方を中心に、縄文時代早期末～前期初頭、前期後葉の集落跡が主に検出された。土偶１点は、低い方に検出された遺物包含層から出土し、この包含層も早期末～前期初頭を主体とするが、晩期後葉～末、弥生時代などの土器小片も混じる。東に隣接する２次調査区では、晩期後葉～末の土器は、もう少しまとまった量が出土している（福島県教育委員会ほか2001）。

・福島県いわき市薄磯貝塚（第15表5427）（いわき市教育委員会2014）

震災復興土地区画整理事業に伴って行われた試掘（トレンチ）調査の報告である。貝類は伴わないが遺物包含層が検出され、出土土器は、縄文時代後期後葉～晩期後葉？、弥生時代前～後期、土師器、須恵器、かわらけで、当該期で出土量の多いのは、大洞Ｃ２式、次いで大洞Ｂ１式で、大洞Ｂ２式、Ａ１式は少ない。土偶は１点出土し、「薄磯貝塚Ａ地区の調査では後期に属する土偶が４点出土しているが、晩期と考えられるものは本例のみである」とされる（報告書：p.174）。

５　小括

新報告資料は、多くが復興調査で出土したものである。長く待望されていた青森県槻の木遺跡と宮城県山王囲遺跡の資料が報告された。弘前大学は、山王囲遺跡以外にも精力的に未報告資料の図化作業を進めていて大変ありがたい。青森県清水森西遺跡、岩手県川岸場Ⅱ遺跡の弥生時代中期資料が注目される。川岸場Ⅱ例は、もし中期前葉とすれば、編年（金子2017a）の変更を余儀なくされる。

註

⑴「22は左腕部で肩部に渦巻き文を入れる。23は右腕部で、肩先にはＢ突起がある」（報告書：p.83）。22は５、23は６の間違いかと思ったが、「５～７は上脚部の一部である」とある。

⑵本稿第14表5316は、写真図版を見ると沈線底に赤色付着物らしきものが認められるが、本文にも観察表にも触れられていない。

⑶遺跡が所在する平川市郷土資料館の展示では、1974年の調査地点は石郷⑷遺跡とされていた（2019年11月17日見学）。『青森県史』（青森県2013）でも同様である。

⑷「頭部がd98区、胴部はd0区から出土した」（報告書：p.82）。１グリッドは５ｍ区画である。

⑸同時期の土器の出土もほとんどないが、北区に近い時期の墓があって（110号土坑）、標高の低い調査区外に捨て場等が存在する可能性もあり、単純に小規模集落以下とみなすこともできない。

⑹報告書に実測図が掲載されているのは、調査で出土した下半身のみだが、地権者が採集した上半身と接合することが判明しており、本稿の観察結果（表も）は全身像についてである。「上半部を採集した地権者の畑地は、遺跡の西側にあったといわれ、発掘地点とはある程度離れていた可能性がある」（報告書：p.185）。細身で胴長、口の周りの入墨状表現や膝に帯状の文様隆帯を持つ等、基本形は“後期以来”の伝統的な土偶であるが、胴部全体に土器と同様の磨消縄文を持つこと（ただし側面は無文）や下腹部、眉～鼻の表現、そして何より遮光器眼を持つことが大型遮光器土偶と共通する。しかし、首の表現や乳房が小さいこと、古期の大型遮光器土偶の特徴であるパンツ状表現を持たないこと、何より中実であることが大きく異なっている。頭部は、空洞ではあるが、通常の輪積中空ではなく、球形の椀に顔を付けたような製作方法で、後頭部が開き、その縁には土器のような突起列が巡る。後期以来の伝統的な土偶が大型遮光器土偶の影響を受けた例と位置づけることができようか。このままでも自立するらしいが（報告書：p.180）、明らかに立てるための工夫が認められることが注目される。それは、「左右の足裏には長楕円の孔があり、径を減じながら腰部下端まで入り込んでいる」（報告書：p.181）ことである。足隅丸長方形、爪先刻目４。

⑺本稿でも取り上げた晩期の拠点集落山田町浜川目沢田Ⅰ遺跡の報告書によれば、縄文時代前中期の大集落の多い山田町は、後晩期に遺跡自体が激減し、浜川目沢田Ⅰ遺跡以外では、畠中遺跡のみで、「多量の遺物が出土している」とされる（（公財）岩手県文化振興事業団2018：p.5）。しかし、報告書掲載遺物を見る限り首肯しがたい。ただし、立地が山田湾で浜川目沢田Ⅰ遺跡の対岸に位置していることや晩期で長期にわたる遺物が掲載されているので、拠点集落の可能性は高い。

⑻顔の表現、首飾状刺突列が、岩手県東裏遺跡の屈折像Ｂ類土偶に酷似しており（金子2021b：第３図10）、この時期の

屈折像Ｂ類には、頭頂部が凹表現となっているものもある（金子2021b：第３図８）。

⑼乳房が丸い貼付であることや脇腹のつ字文、背中の文様が左右に分かれ、つ字状であること、その間に６字文が施されているのは新しい要素、正中線と６字文が刺痕列で表現され、パンツの紐状区画線が腰の後ろに伸びているのは古い要素で、乳房以外は大洞A1式新期と判断するのが妥当と思われる。乳房表現は、この時期の原則に則っていないのだろう。

⑽時期を特定するのが難しい異形の土偶だが、下腹の丸い貼付の上に刺突を施す表現から判断した。類例として本稿⑹第８表4220があり、さらに中期と見なされることの多い秋田県東福寺村上遺跡例がある（「土偶とその情報」研究会1994：秋田図版47の４）。

⑾抽象的な板状土製品で、資料報告では「土版型土製品」とされている。しかし、乳房の箇所に貫通孔を持つのは、この時期の土偶の特徴で、背面背中部分に大柄な工字状文を持つのも同様である。表裏全体に８条の平行沈線を持ち、その間に刺突列を施している。上端は広がり波打っているようで、下端は凹んでいる。

⑿遮光器土偶の出土から、それなりの格の遺跡と思われるが、調査面積が約250㎡と狭いせいか、調査区全体に遺構面上部が大きく撹乱されているためか、掲載土器も少なく、はっきりしない。

⒀トレンチ状の調査で全容が掴めない。出土土器は、大洞Ｃ２～Ａ１式が多いが、大洞BC2式も比較的多く、数はそれほどでもないが、後期から継続して大洞Ａ２式まで見られ、。拠点集落か半拠点集落か悩む。

参考文献

青森県　2013『青森県史　資料編　考古２　縄文後期・晩期』

青森県教育委員会　2015『剣吉荒町遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第558集

2016『金沢街道沢⑴遺跡・新沢⑴遺跡・新沢⑵遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第563集

2017『道仏鹿糠遺跡Ⅱ・下平窪遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第586集

青森市教育委員会　2006『篠原遺跡発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書第89集

秋田県教育委員会　2015『小勝田館跡』秋田県文化財調査報告書第500集

石川日出志　2005「弥生中期谷起島式に後続する磨消縄文土器群」『岩手考古学』第17号　岩手考古学会

稲野彰子　1983「岩版」『縄文文化の研究第９巻　縄文人の精神文化』雄山閣

いわき市教育委員会　1993『久世原館・番匠地遺跡』いわき市埋蔵文化財調査報告第33冊

2001『横山Ｂ遺跡』いわき市埋蔵文化財調査報告第77冊

2014『震災復興土地区画整理事業地内試掘調査報告２（薄磯地区）』いわき市埋蔵文化財調査報告第160冊

岩手県教育委員会　1979『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅰ』岩手県文化財調査報告書第31集（木賊川遺跡）

1979『東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』岩手県文化財調査報告書第34集（高松遺跡）

2016『岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成26年度　復興関係）』岩手県文化財調査報告書第146集

（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2016『宮野貝塚発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第649集

2016『向新田Ⅲ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第657集

2018『乙部野Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第682集

2018『浜川目沢田Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第689集

2021『宿戸遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第726集

大崎市教育委員会　2015『矢根八幡遺跡』宮城県大崎市文化財調査報告書第21集

大崎市教育委員会　2019『お椀子山遺跡』宮城県大崎市文化財調査報告書第35集

大崎市教育委員会　2021『通木田中前遺跡』宮城県大崎市文化財調査報告書第41集

大崎市教育委員会　2021『いもり塚周辺遺跡ほか』宮城県大崎市文化財調査報告書第43集

大船渡市教育委員会　2015『岩手県大船渡市　宮野貝塚　平成25年度緊急発掘調査報告書』

大船渡市教育委員会　2016『岩手県大船渡市　宮野貝塚　平成23・24年度緊急発掘調査報告書』

大船渡市教育委員会　2016『岩手県大船渡市　大洞貝塚　長洞遺跡　平成27年度緊急発掘調査報告書』

大船渡市教育委員会　2018『岩手県大船渡市　長谷堂貝塚群　平成26年度緊急発掘調査報告書』

大船渡市教育委員会　2020『岩手県大船渡市　長谷堂貝塚群　平成26年度緊急発掘調査報告書』

大船渡市教育委員会　2021『岩手県大船渡市　震災復興関連　試掘・立会調査報告書』

金子昭彦　2006「東北地方北部における縄文晩期の『装飾品』⑴」『紀要』ＸＸＶ ㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

金子昭彦　2009「縄文晩期・東北北部の土製耳飾」『縄文時代』第20号　縄文時代文化研究会

金子昭彦　2010a「東北地方・縄文晩期の土偶⑴」『紀要』ＸＸⅨ　㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

金子昭彦　2010b「縄文晩期・東北北部の土製耳飾（続）」『縄文時代』第21号　縄文時代文化研究会

金子昭彦　2011a「東北地方・縄文晩期の土偶⑵」『紀要』ＸＸＸ　（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

金子昭彦　2011b「北日本・縄文晩期の三角玉ほかの装飾品」『岩手考古学』第22号　岩手考古学会

金子昭彦　2011c「北日本・縄文晩期の花弁丸玉、平玉」『縄文時代』第22号　縄文時代文化研究会

金子昭彦　2012「東北地方・縄文晩期の土偶⑶」『紀要』ＸＸＸⅠ　（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

金子昭彦　2014「東北地方・縄文晩期の土偶⑷」『紀要』第33号　（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

金子昭彦　2015a「東北地方・縄文晩期の土偶⑸」『紀要』第34号　（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

金子昭彦　2015b「大洞Ｃ２式期・大型遮光器系列土偶の編年」『古代』第137号　早稲田大学考古学会

金子昭彦　2015c「縄文土偶の終わり」『考古学研究』第62巻第２号　考古学研究会
金子昭彦　2016「東北地方・縄文晩期の土偶⑹」『紀要』第35号　（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
金子昭彦　2017a「弥生時代の縄文土偶」『青森県考古学』第24号　青森県考古学会
金子昭彦　2017b「東北地方『亀形土製品』の一類型」『縄文時代』第28号　縄文時代文化研究会
金子昭彦　2019「東北地方・縄文晩期の土偶関連遺物⑷」『紀要』第38号　（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
金子昭彦　2020a「東北地方・縄文晩期の土偶関連遺物⑸」『紀要』第39号　（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
金子昭彦　2020b「亀ヶ岡式的な土偶の広がり」『ＤＯＧＵ』第３号　土偶研究会（青森県成田滋彦氏）
金子昭彦　2021a「東北地方・縄文晩期の土偶関連遺物⑹」『岩手考古学』第32号　岩手考古学会
金子昭彦　2021b「亀ヶ岡式土偶に関する諸問題」『ＤＯＧＵ』第４号　土偶研究会（青森県成田滋彦氏）
金子昭彦　2022「東北地方・縄文晩期の土偶⑺」『紀要』第41号　（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
釜石市教育委員会　2019『屋形遺跡発掘調査報告書１』釜石市埋蔵文化財調査報告書第35集
工藤国雄　1978「弘前市清水森西遺跡出土の続縄文式土器」『考古風土記』第３号　青森県鈴木克彦氏
国立歴史民俗博物館　2015『亀ヶ岡遺跡・是川遺跡　縄文時代遺物』国立歴史民俗博物館資料図録11
国立歴史民俗博物館　2022『槻の木遺跡出土品』国立歴史民俗博物館資料図録12
七ヶ浜町教育委員会　2019『二月田貝塚第３次調査　東宮貝塚第２次調査』七ヶ浜町文化財調査報告書第12集
仙台市教育委員会　2018『鍛冶屋敷Ａ遺跡・富沢館跡・川前遺跡ほか』仙台市文化財調査報告書第466集
高橋龍三郎　1993「大洞Ｃ２式土器細分のための諸課題」『先史考古学研究』第４号　阿佐ヶ谷先史学研究会
（青森県）つがる市教育委員会　2019『史跡亀ヶ岡石器時代遺跡総括報告書』つがる市遺跡調査報告書11
「土偶とその情報」研究会　1994『土偶シンポジウム２秋田大会　東北・北海道の土偶Ⅰ』
「土偶とその情報」研究会　1996『土偶シンポジウム５宮城大会　東北・北海道の土偶Ⅱ』
（福島県双葉郡）楢葉町教育委員会　2019『高橋遺跡（第１次調査）』楢葉町文化財調査報告書第19集
成田滋彦　2015「青森県平内町槻の木遺跡の土偶」『青森県考古学』第23号　青森県考古学会
根岸　洋　2021『紀元前一千年紀前半の気候変動期における縄文晩期社会システムの変容プロセス』国際教養大学
八戸市南郷区役所建設課　2007『荒谷遺跡』八戸市南郷区埋蔵文化財調査報告書
八幡平市教育委員会　2017『松尾釜石環状列石―1953年発掘調査の記録―』
花巻市教育委員会　2007『不動Ⅱ遺跡第14次発掘調査報告書』花巻市埋蔵文化財発掘調査報告書第２集
花巻市教育委員会　2018『賃貸住宅建設関連遺跡発掘調査報告書』花巻市埋蔵文化財発掘調査報告書第23集
平泉町教育委員会　2002『長島中村地区発掘調査略報』岩手県平泉町文化財調査報告書第80集
平賀町教育委員会　1988『旧大光寺城⑵遺跡発掘調査報告書』平賀町埋蔵文化財報告書第17集
平賀町教育委員会　1995『石郷⑴遺跡発掘調査報告書』平賀町埋蔵文化財報告書第21集
弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センター　2017『八郎潟沿岸における縄文時代晩期末の研究』
弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センター　2018『八郎潟沿岸の亀ヶ岡文化』
弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センター　2019『岩木山麓における弥生時代前半期の研究』
弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センター　2021『国史跡山王囲遺跡の研究Ⅱ　石器・石製品・土製品・骨角器編』
福島県教育委員会ほか　1999『常磐自動車道遺跡調査報告18』福島県文化財調査報告書第356集
福島県教育委員会ほか　2001『常磐自動車道遺跡調査報告22』福島県文化財調査報告書第375集
福島県教育委員会ほか　2015『一般国道115号相馬福島道路遺跡発掘調査報告１』福島県文化財調査報告書第500集
福島県教育委員会ほか　2020『県道広野小高線関連遺跡発掘調査報告２』福島県文化財調査報告書第538集
福島市教育委員会　2003『邸下遺跡』福島市埋蔵文化財報告書第162集
福島市教育委員会　2005『大平・後関遺跡３』福島市埋蔵文化財報告書第177集
藤沼邦彦　2013「29　槻の木遺跡」『青森県史　資料編　考古２　縄文後期・晩期』　青森県
（公財）北海道埋蔵文化財センター　2017『木古内町　大平遺跡⑷』（公財）北海道埋蔵文化財センター調査報告書第329集
前沢町教育委員会　2002『川岸場Ⅱ遺跡発掘調査報告書　大室屋敷鈴木家墓地調査報告書』岩手県前沢町文化財調査報告書第13集
宮城県教育委員会　2019『大久保貝塚ほか』宮城県文化財調査報告第250集
2020『団子山西遺跡Ⅱ』宮城県文化財調査報告第252集
（公財）山形県埋蔵文化財センター　2019『上竹野遺跡第１・２次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第234集
山田町教育委員会　2020『畠中遺跡発掘調査報告書』山田町埋蔵文化財調査報告書第16集
横手市　2007『横手市史　資料編　考古』
陸前高田市教育委員会　2018『雲南・獺沢貝塚・神崎・三日市Ⅱ遺跡発掘調査報告書』陸前高田市文化財調査報告第33集